

陸普第七三四七號

昭和八年十二月廿九日

實用新案登録願

一實用新案名稱 航空機用機上連絡装置

一考案者 東京府北多摩郡立川町千五百九十七番地馬越徹雄

右出願ニ關シ別紙圖面ニ記載スル物品ニ
付實用新案登録相受度候也

昭和八年十二月 日 東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣 荒木貞夫

特許局長官 中松真卿 殿

添附書類目錄

一 說明書

貳 通

一 圖面

貳 通

一 讓渡證

壹 通

讓渡證

一實用新案ノ名稱 航空機用機上連絡裝置

右私ノ考案ニ付實用新案登録ヲ受クルノ
權利ヲ國ニ讓渡候也

東京府北多摩郡立川町二千五百九十七番地

馬越徹雄 (馬越)

昭和八年十月二十日

陸軍大臣 荒木貞夫 殿

航空機用機上連絡装置説明書

說 明 書

實用新案ノ名稱 航空機用板上連絡装置

圖面ノ略解

添附圖面ハ本案ノ機構ヲ例示セルモノニシテ第一圖ハ
正面全體圖第二圖ハ開閉器ノ部分ノ縱斷面圖ニシテ第
三圖ハ通信筒ノ平面圖ナリ

實用新案ノ性質作用及效果ノ要領

本案ハ航空機ノ機體ニ設置シタル受風筒(1)(1')ニ通過ス
ル氣流ニヨリ生スル負壓ヲ兩端ニ開閉器(4)ヲ有スル導
管ニ導キ其導管内ヲ通過シ得ル通信筒チ一端ヨリ他端
ニ適時移動セシムルモノニシテ之ニ關聯セル電氣的信
號ノ併用ニヨリ相互間ノ通信連絡ヲ完成セシメントス

ル機成ニ係ルモノニシテ第一圖航空機々機側壁(5)ノ外

ル構成ニ係ルモノニシテ第一圖航空機々體側壁(1)ノ外
 側ニ受風筒(1)(1)ヲ設置シ之ニ依リテ生スル負壓ヲ連結
 管(2)(2)ニヨリ開閉器(4)(4)内ニ傳フル如クス開閉器(4)ハ
 第二圖ニ示ス如ク本體(4)開閉蓋(5)連結管接續用牝螺(8)
 導管接續用牝螺(6)及障柵(8)ヨリ成ル而シテ本體(4)ニハ
 其一部ニ缺裁部ヲ設ケ通信筒(第三圖)ヲ挿入又ハ取出ス
 爲ノ開閉口(9)ヲ有ス開閉蓋(5)ハ本體(4)ノ外周ヲ摺動シ
 テ開閉口(9)ノ開閉ヲ行フ連結管接續用牝螺(8)ハ連結管
 (2)ト開閉器(4)トヲ接續シ導管接續用牝螺(6)ハ導管(7)ヲ
 開閉器ニ接續螺定シ其兩牝螺ノ他端ハ共ニ開閉蓋(5)ノ
 移動範圍ヲ制限スル如ク鋸部ヲ形成ス開閉器(4)ノ中央
 ニ設ケタル障柵(8)ハ通信筒ノ到着シタル時之ヲ停止セ

字牌

シムル爲ノ金屬格子トス導管(7)ハ航空機々體ノ構造ニ
依リ適當ノ長ニ從ヒ且適宜屈曲シ或ハ按横シテA B 二

ケ所ノ開閉器(4)(4)間ヲ導通セシムルモノトス

第三圖ニ示ス通信筒ハ導管(7)内ヲ容易ニ通過セシムル

爲其中徑ヲ導管内徑ヨリ稍小ニシタル「セルロイド」

ノ如キ輕質材ノ砲弾形中空筒ニシテ其圓錐形内部ニ所

要ノ通信用紙ヲ卷キテ收容シ得ル如クナシタルモノナ

リ

航空機ノ機體側面ニ設置セラレタル受風筒(1)(1)ハ飛行

中常ニ受クル大速度ノ氣流ニヨリ連結管(2)(2)及開閉器

(4)(4)内ニ負壓ヲ生スルモ導管(7)内ニ於テハ氣流ノ移動

ヲ生セサルモ何レカーツノ開閉口ヲ閉ツルコトニヨリ

導管(7)内ノ氣壓ノ變化ニヨリ氣流ヲ生スルヲ以テ通信

導管(7)内ノ氣壓ノ變化ニヨリ氣流ヲ生スルヲ以テ通信筒ヲ挿入スル時ハ他端ニ移動シ通信ノ用ヲ辨スルモノトス

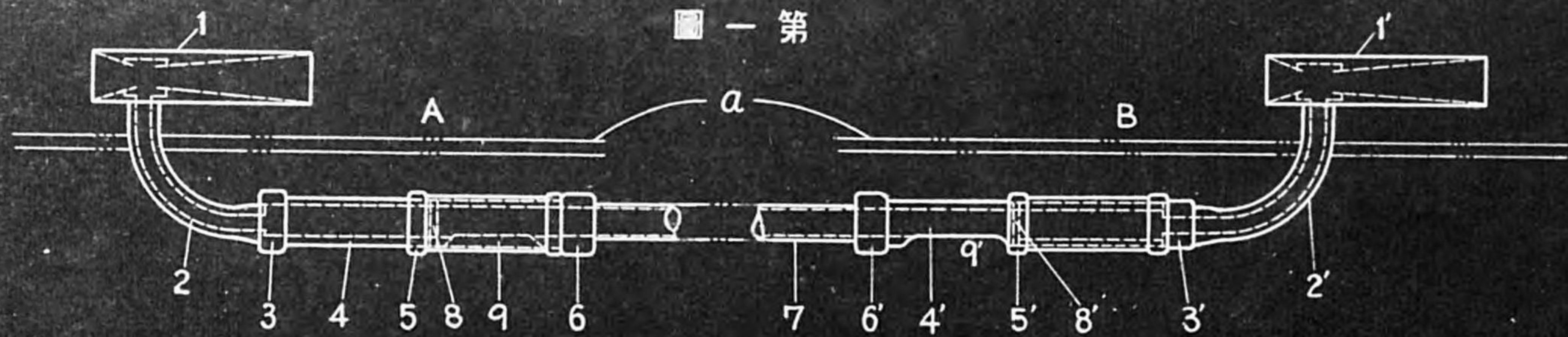
今BヨリAニ通信セントスル時ハBナル發信者ハ球ノ通信文ヲ通信筒内ニ收納シ之ヲ開閉口(9)ヨリ導管(7)内ニ挿入シAナル受信者ニ小電球等ニヨル電氣的信號ヲ爲セハコレニ依リAハ已カ開閉蓋(8)ヲ指動シテ開閉口ヲ閉ツルコトニ依リ通信筒到着スAヨリBニ通信セントスル時モ前項ニ準スルモノトス

登録請求ノ範圍

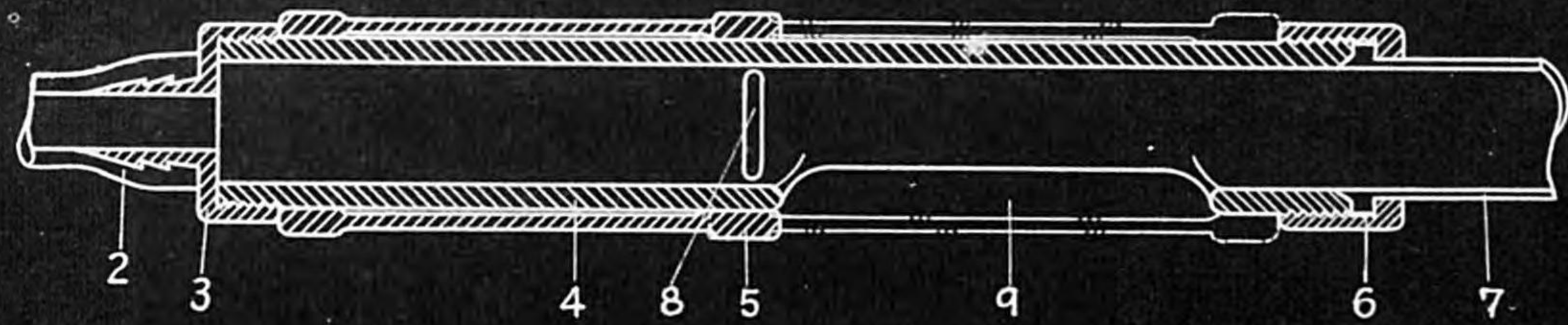
本文ニ記載シ圖面ニ示ス如ク航空機飛行中生スル氣流ヲ利用シ受風筒ニヨリ生スル負壓ヲ一本ノ導管ニ導キ

此導管内ニ氣流ヲ生セシメ以テ此内ヲ通過スヘキ通信
筒ヲ單ニ圓筒形蓋ヲ指動又ハ廻轉セシムルコトニヨリ
本目的ヲ達成シ得ル如ク成シタル航空機用機上連絡装
置ノ構造

陸軍大臣 荒木貞夫



第一圖



第二圖



第三圖

四 砲 起 重
 三 輪 滑 車
 二 輪 滑 車
 氣 掛 滑 車
 捲 揚 機
 氣 掛 滑
 縛
 孔 塞 喉 用
 草
 喉
 壓 孔
 備 發
 提 把 用
 照 準 機
 齒 輪 箱
 機 分 解
 加 車 彈
 大
 小
 活

登 録 通 知 證

願番書號	昭和 8 年實用新案登録願第 29428 號
納付者	陸軍大臣
代理人	
領年月日	
領金額	金二十一圓也 第一年乃至第三年分登録料
登年月日	昭和 10 年 4 月 5 日
登番號	第 206282 號

注意 ○ 第四年分以後ノ登録料ハ登録ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
 ○ 登録證ハ追テ交付ス



原書類ハ左記回覽中
 主務課
 回覽課

表
 頁

特許第一〇九七七六號

特許證

陸軍大臣

發明者 東京市 國澤新太郎 古澤忠八治

發明ノ名稱 金屬浴ニヨルゴム連續加硫方法

出願公告 昭和九年十二月七日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登録シ本證ヲ下付ス

昭和十年 二月廿七日

特許局長官 中松眞卿



1211	1222
1410	1420
0	11910
11	11911
11	11912
11	11913
11	11914
11	11915
11	11916
11	11917
11	11918
11	11919
11	11920
11	11921
11	11922
11	11923
11	11924
11	11925
11	11926
11	11927
11	11928
11	11929
11	11930
11	11931
11	11932
11	11933
11	11934
11	11935
11	11936
11	11937
11	11938
11	11939
11	11940
11	11941
11	11942
11	11943
11	11944
11	11945
11	11946
11	11947
11	11948
11	11949
11	11950



九年
第九四號
五
昭和十年四月十三日

特許査定
陸軍省
16
10.4.17



昭和九年特許願第二五九五號
發明ノ名稱 金屬浴ニヨルコム連続加硫装置

出願人 陸軍大臣
代理人

出願公告昭和十年一月二十五日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ

本願ニ付テハ拒絕ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ之ヲ特許スヘキモノトス

昭和十年四月十一日 特許局審査官 関本賢治

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和十年四月十三日

特許局屬 高橋米太郎

(シヘス意注ニ項事載記ノ面裏)

昭和四年四月十三日

高松米太

注意

一 特許料ハ別紙納付書用紙ニ納付スヘキ特許料ノ金額ニ相當スル収入印紙ヲ貼附シテ特許局ニ之ヲ差出スヘシ
(収入印紙ニハ消印ヲ爲スヘカラス)

二 特許料左ノ如シ

- (イ) 第一年乃至第三年 毎年 十圓
- (ロ) 第四年及第五年 毎年 十五圓
- (ハ) 第六年乃至第九年 毎年 二十五圓
- (ニ) 第十年乃至第十二年 毎年 三十五圓
- (ホ) 第十三年乃至第十五年 毎年 五十圓

三 第一年乃至第三年ノ特許料(三十圓)ハ別紙記載ノ期間内ニ一時ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス

前記特許料ヲ前項ノ納付期間内ニ納付スルコト能ハサルトキハ其ノ期間内ニ事由ヲ具シテ期間ノ延長ノ請求ヲ爲スコトヲ得(請求書ニハ一圓ニ相當スル収入印紙ヲ貼附スルコトヲ要ス)此ノ場合ニ於テハ三十日以内ヲ限リ延長ヲ許可スルコトアルヘシ

第四年以後ノ特許料ハ各其ノ前年ニ之ヲ納付スルコトヲ要ス但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

第四年以後ノ特許料ノ納付期間ハ出願公告ノ日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

四 利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

昭和四年四月十三日



登録通知
領收證

願番書號	昭和9年特許願第 1460 號
出願公告年月日	昭和9年 12月 7日
納付者	陸軍大臣
代理人	陸軍大臣
領年月日	
領金額	金三十圓也 第一年乃至特許料 第三年分
登年月日	昭和10年 2月27日
特許號	第 109776 號

注意
 ○第四年分以後ノ特許料ハ出願公告アリタルモノニ付テハ出願公告ノ日、出願公告ナキモノニ付テハ登録ノ日ニ應當スル日迄ニ毎年規定ノ金額ヲ前納スヘシ
 ○特許證ハ追テ交付ス

陸軍省
 九四號



原書類ハ左記回覽申

主務課

回覽課

三月五日 右身出



1104	1104
1105	1105
1106	1106
1107	1107
1108	1108
1109	1109
1110	1110
1111	1111
1112	1112
1113	1113
1114	1114
1115	1115
1116	1116
1117	1117
1118	1118
1119	1119
1120	1120
1121	1121
1122	1122
1123	1123
1124	1124
1125	1125
1126	1126
1127	1127
1128	1128
1129	1129
1130	1130
1131	1131
1132	1132
1133	1133
1134	1134
1135	1135
1136	1136
1137	1137
1138	1138
1139	1139
1140	1140
1141	1141
1142	1142
1143	1143
1144	1144
1145	1145
1146	1146
1147	1147
1148	1148
1149	1149
1150	1150
1151	1151
1152	1152
1153	1153
1154	1154
1155	1155
1156	1156
1157	1157
1158	1158
1159	1159
1160	1160
1161	1161
1162	1162
1163	1163
1164	1164
1165	1165
1166	1166
1167	1167
1168	1168
1169	1169
1170	1170
1171	1171
1172	1172
1173	1173
1174	1174
1175	1175
1176	1176
1177	1177
1178	1178
1179	1179
1180	1180
1181	1181
1182	1182
1183	1183
1184	1184
1185	1185
1186	1186
1187	1187
1188	1188
1189	1189
1190	1190
1191	1191
1192	1192
1193	1193
1194	1194
1195	1195
1196	1196
1197	1197
1198	1198
1199	1199
1200	1200

特許第九四號其三

特許證書 定 贈 本

陸軍省
10.2.25
38. 辨
第 陸軍省

昭和九年特許願第一四六〇號
發明ノ名稱 金屬渣ニヨルコム連続加硫方法

出願人 陸軍大臣

代理人

出願公告昭和九年十一月七日

右出願ニ付査定スルコト左ノ如シ
本願ニ付テハ拒絕ノ理由ヲ發見セサルヲ以テ本願ノ發明ハ
之ヲ特許スヘキモノトス

昭和十年二月十九日 特許局審査官 天谷次一

右謄本昭和原
本相違ナキコトヲ認證ス

昭和 年 月 日

特許局屬

高橋米



(シヘス意注ニ項事載記ノ面裏)

陸 普

副官ヨリ陸軍科學研究所長ニ通牒

(陸軍技術本部經由)

一月三十一日附陸科研甲第五二號ニヨル左記特許
出願ニ関シ別紙寫ノ通出願公告ノ決定謄本送
付ス

左

記 陸普第七二七五號 昭和九年三月四日

金屬浴ニヨルゴム連續加硫方法



11	11
12	12
13	13
14	14
15	15
16	16
17	17
18	18
19	19
20	20
21	21
22	22
23	23
24	24
25	25
26	26
27	27
28	28
29	29
30	30
31	31
32	32
33	33
34	34
35	35
36	36
37	37
38	38
39	39
40	40
41	41
42	42
43	43
44	44
45	45
46	46
47	47
48	48
49	49
50	50
51	51
52	52
53	53
54	54
55	55
56	56
57	57
58	58
59	59
60	60
61	61
62	62
63	63
64	64
65	65
66	66
67	67
68	68
69	69
70	70
71	71
72	72
73	73
74	74
75	75
76	76
77	77
78	78
79	79
80	80
81	81
82	82
83	83
84	84
85	85
86	86
87	87
88	88
89	89
90	90
91	91
92	92
93	93
94	94
95	95
96	96
97	97
98	98
99	99
100	100

昭和九年十月二十八日

出願公告ノ



昭和九年特許願第一四〇九號
發明ノ名稱 金屬渣ニヨルゴム連續加硫
示法

出願人 陸軍大臣
代理人

本願ハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定ス
昭和九年十月廿四日 特許局審査官 天谷次一

右謄本ハ原本ト相違ナキコト認證ス
昭和九年十月二十八日 特許局屬 高橋米太郎

1102	1102
1103	1103
1104	1104
1105	1105
1106	1106
1107	1107
1108	1108
1109	1109
1110	1110
1111	1111
1112	1112
1113	1113
1114	1114
1115	1115
1116	1116
1117	1117
1118	1118
1119	1119
1120	1120
1121	1121
1122	1122
1123	1123
1124	1124
1125	1125
1126	1126
1127	1127
1128	1128
1129	1129
1130	1130
1131	1131
1132	1132
1133	1133
1134	1134
1135	1135
1136	1136
1137	1137
1138	1138
1139	1139
1140	1140
1141	1141
1142	1142
1143	1143
1144	1144
1145	1145
1146	1146
1147	1147
1148	1148
1149	1149
1150	1150
1151	1151
1152	1152
1153	1153
1154	1154
1155	1155
1156	1156
1157	1157
1158	1158
1159	1159
1160	1160
1161	1161
1162	1162
1163	1163
1164	1164
1165	1165
1166	1166
1167	1167
1168	1168
1169	1169
1170	1170
1171	1171
1172	1172
1173	1173
1174	1174
1175	1175
1176	1176
1177	1177
1178	1178
1179	1179
1180	1180
1181	1181
1182	1182
1183	1183
1184	1184
1185	1185
1186	1186
1187	1187
1188	1188
1189	1189
1190	1190
1191	1191
1192	1192
1193	1193
1194	1194
1195	1195
1196	1196
1197	1197
1198	1198
1199	1199
1200	1200

第九四號 其 一 三月廿三日

願書番號通知

昭和九年特許願書第 1460 號

昭和九年 月 日 差出ニ係ル特許願書ニ附

シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス
 追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ
 必ス之ニ前記願書番號(昭和九年特許願書第 號)及發明
 ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用

昭和九年 月 日

特許局



陸軍

陸軍省 陸軍技術本部 第九四號

陸科研甲第五二號

特許出願

昭和九年一月三十一日

陸軍大臣 林

左記品目ニ對シ別紙讓渡進達セシニ付特許願相成

左

- 一 發明ノ名稱 金屬浴
- 一 發明者 東京市淀橋區百人町三丁目貳百七拾番地

東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦澤忠治

國澤新太郎

陸軍省 陸軍技術本部 第九四號
 昭和九年一月三十一日
 陸軍大臣 林
 左記品目ニ對シ別紙讓渡進達セシニ付特許願相成
 左
 一 發明ノ名稱 金屬浴
 一 發明者 東京市淀橋區百人町三丁目貳百七拾番地
 東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地
 芦澤忠治
 國澤新太郎



陸軍省 陸軍技術本部 第九四號

陸科研甲第五二號

特許出願ノ件上申

昭和九年一月三十一日

陸軍大臣 林 銑十郎 殿

陸軍科學研究所長 久村 種樹

左記品目ニ對シ別紙讓渡證二通特許願並明細書、圖面各四通添付
進達セシニ付特許願相成度

左記

一 發明ノ名稱 金屬浴ニヨル「ゴム」連續加硫方法
一 發明者 東京市淀橋區百人町三丁目貳百七拾番地

國 澤 新太郎
東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地
芦澤 忠治



陸



官房御中

銃砲課

本文申越、通宜貝用新案登録願及明細書(圖面)ニ大臣捺印、上讓渡證ト共ニ特許局ニ送達
昭和九年一月十四日
陸軍省 銃砲課

陸普第七九八號 昭和九年二月十四日

官房控

特許願

一、發明ノ名稱 金屬谷ニヨルゴム連續加硫方法

一、發明者 東京市茨橋區百人町参丁目貳百七拾番地

國 澤 新太郎

一、同 東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦 澤 忠 治

右出願ニ關シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受
度候也

昭和九年 月 日

東京市麹町區永田町壹丁目壹番地

陸軍大臣 林 銑 十 郎

特許局長官 中松真卿殿

添什書類目錄

一、 明細書

貳通

一、 圖面

貳通

一、 讓渡證

壹通

讓渡證書

一發明名稱 金屬浴ニヨルゴム連續加硫方法
右私等ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ讓渡
致候也

昭和九年一月二十九日

東京市淀橋區百人町三丁目貳百七拾番地

國澤新太郎

東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦澤忠治

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



明細書

發明ノ名稱

金屬浴ニヨルゴム連續加硫方法

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ加硫溫度ヨリ低々熔融點ヲ有スル金屬浴中ヲ
回轉或ハ移動スル加熱サレタル物体ノ表面ニ沿ヒテ被
加硫物ヲ連續通過セシムルコトヲ特徴トスルゴム連續
加硫方法ニ係リ其目的トスル所ハ厚サ不均一ナルゴム
引布等ノ如クモノト雖常ニ熔融金屬ノ液体壓ニヨリ各
部ニ一定壓ヲ加ヘツツ兩面ヨリ同一溫度ニ加熱シテ均
一ナル加硫ヲ行ハシメ且連續作業ヲ可能ナラシムルコ
トニヨリ從來ノ加硫罐ニヨル加硫ノ如ク不連續不均一
ノ害ヲ避ケントスルニアリ

圖面ノ畧解

別紙圖面ハ本發明ノ方法ヲ實施スル一例ヲ示スモノニシテ第一圖ハ其說明的側面圖第二圖ハ同正面圖ナリトス而シテ此等圖中同一符號ハ同一部分ヲ示スモノトス發明ノ詳細ナル說明

從來ゴムノ熱加硫ニハ空氣加硫ノ如ク空氣又ハ其他ノガス体ヲ熱ノ媒体トスルモノプレス加熱ノ如ク金屬板間或ハ型中ニテ他ニ設ケシ加壓裝置ニヨリテ壓ヲ加ヘ金屬板ヲ熱ノ媒体トスルモノ熱湯加硫ノ如ク水又ハ水溶液ヲ熱ノ媒体トスルモノ等アレトモ本發明ノ如ク熔融金屬ヲ熱ノ媒体トシテ加硫ヲ行フ方法ナシ本發明ノ特徴ハ加硫溫度ヨリ低々溫度即チ攝氏一〇〇

度附近ニ於テ熔融シ銅マンガン其他ゴムニ有害ナル金
屬ヲ含マス且空氣中ニテ酸化變質スルコト少ナキ例ハ
ハミルトンメタル(熔融點攝氏九七、五度)等ノ如キ金屬ノ
浴中ヲ加熱サレ得ル金屬製筒ヲ回轉セシムルカ又ハ金
屬製板ヲ移動セシメ其表面ニ沿ヒテ被加硫物ヲ通過セ
シメ加熱金屬及金屬浴ノ表面ヨリ熱ヲ供給シ且熔融金
屬浴ヨリ生スル液体壓ヲ利用シテゴム引布等ノ連續加
硫ヲ行フコトナリ而シテ金屬浴ハ熱ノ媒体及壓力供給
ノニ作用ヲナシシカモ其壓力ハ液体壓ナルニヨリ液高
ニヨリ一定ニシテ一定ノ厚サニ加硫スハ又ゴム引布等
ノ加壓原理トシテハ極メテ適當ナルモノナリ
従來ノ連續加硫方法ハ加熱セラレシ回轉圓筒ノ表面

沿ヒテゴム引布等ヲ移動セシメ其外面ヲ縫目無シ鋼鐵
製調帶ニテ押へ別ニ設ケシ水壓装置ニヨリ生セシメシ
壓ヲ之ニ加ヘテ加壓加硫ヲ行フモノナレハ熱ハゴム引
布等ノ加熱圓筒側ノミヨリ供給セララルルノ缺點ヲ有ス
又縫目無シ鋼鐵製調帶ハ大ナル張力ヲ受クルモノナレ
ハ調帶並裝置ハ極メテ堅牢ナルヲ要ス斯クノ如ク良質
大型ノ鋼鐵製調帶ハ曰下國內ニテ製作セラレサルノミ
ナラス萬一調帶破斷スルトハコレカ受ケツツアル大
ナル張力及鋼鐵ノ彈性ヨリ來ル甚大ナル危険ヲ豫想セ
ナルヘカラス又調帶上ニ瑕瑾ヲ生セシトハ製品ニ斑
點ヲ生スルヲ以テ全調帶ノ新調ヲ必要トス然ルニ本發
明ノ方法ニ於テハ斯ノ如ク大ナル張力ヲ受クヘク鋼鐵

製調帶ヲ要セサル故装置モ特ニ堅牢ナルヲ要セス危険
 モ少ナク且修理等モ容易ナリ
 其實施ノ一例ヲ示セハ別紙圖面ノ如シ 第一圖及第二
 圖ニ於テ(1)ハ金屬製圓筒(2)ハ金屬浴槽(3)ハ金屬浴(4)ハ
 ゴム引布等ノ如キ被加硫物(5)(6)ハローラ(7)ハブローレ
 ヲ(8)(9)(10)(11)ハ蒸氣管(12)ハ全装置ノ臺ニシテ床ニ取付ケ
 ラル先ツ管(8)及(10)ヨリ水蒸氣ヲ送入シテ圓筒(1)及槽(2)
 ヲ加硫温度ニ加熱シ金屬浴(3)ヲモ加硫温度トナシ圓筒
 (1)ヲ適當ノ速度ヲ以テ回轉ス 被加硫物(4)ハローラ(5)
 (5)ヲ經テ金屬浴(3)ニ入り圓筒(1)ノ表面ニ沿ヒテ然モ熔
 融金屬ノ液体壓ヲ受ケツツ加硫セラレローラ(6)ヲ經
 テ矢印ノ方向ニ連續的ニ進行ス 此際圓筒(1)及槽(2)ノ

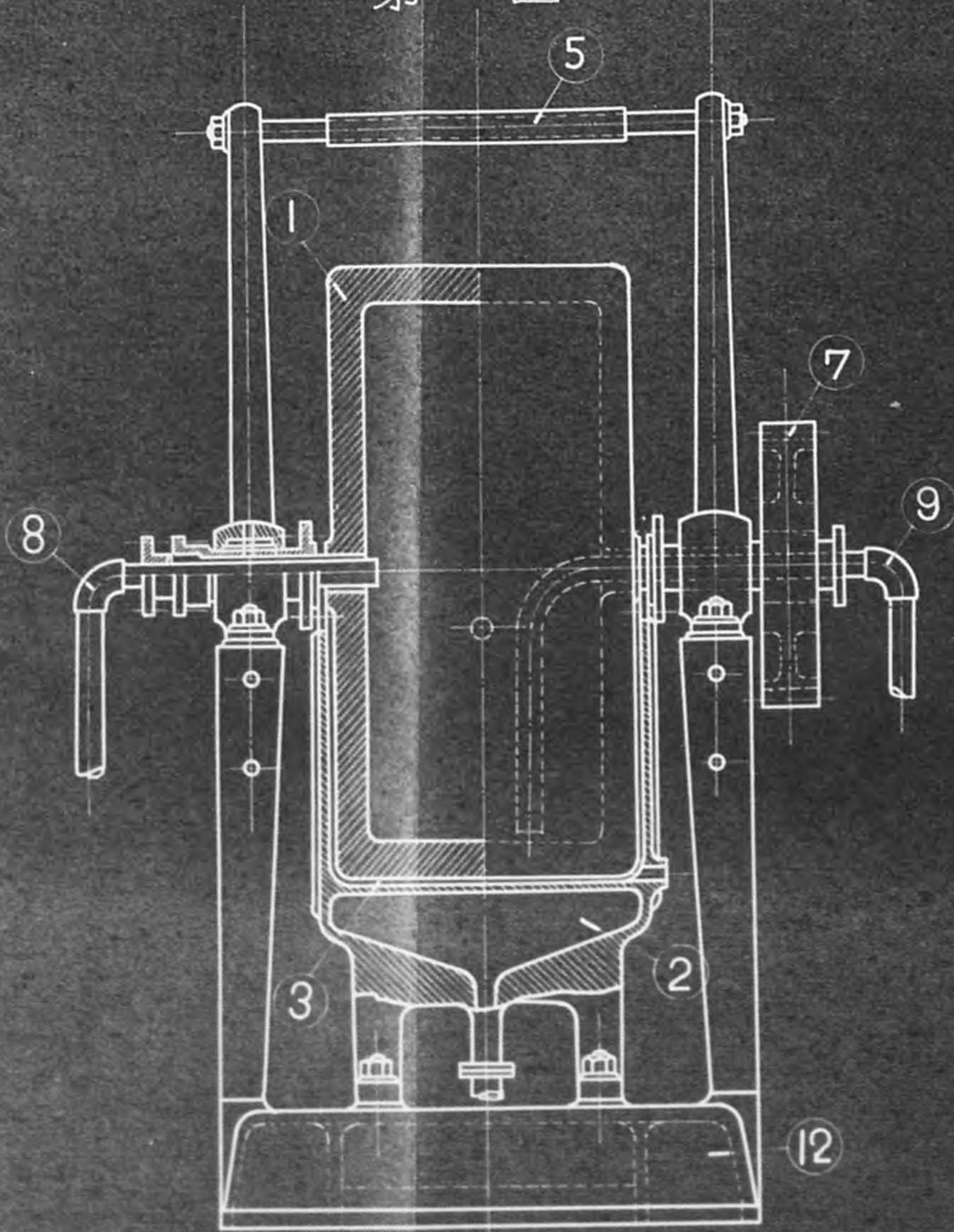
温度ハ(8)(10)ノ管ヨリ送入セララルル水蒸氣ノ量及(9)(11)ノ管ヨリ排出セララルル水蒸氣ノ量ヲ加減スルコトニヨリテ恒温ニ保持セララルルモノナリ被加硫物ハ前記ノ如クニシテ連續的ニ均一ニ加硫セララルヲ本發明ノ特徴トス

特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ニ於テ本文ニ詳記シ圖面ニ示セル如ク加硫温度ヨリ低々熔融點ヲ有スル金屬浴中ヲ回轉或ハ移動スル加熱サレタル物体ノ表面ニ沿ヒテ被加硫物ヲ連續通過セシムルコトヲ特徴トスル連續加硫方法

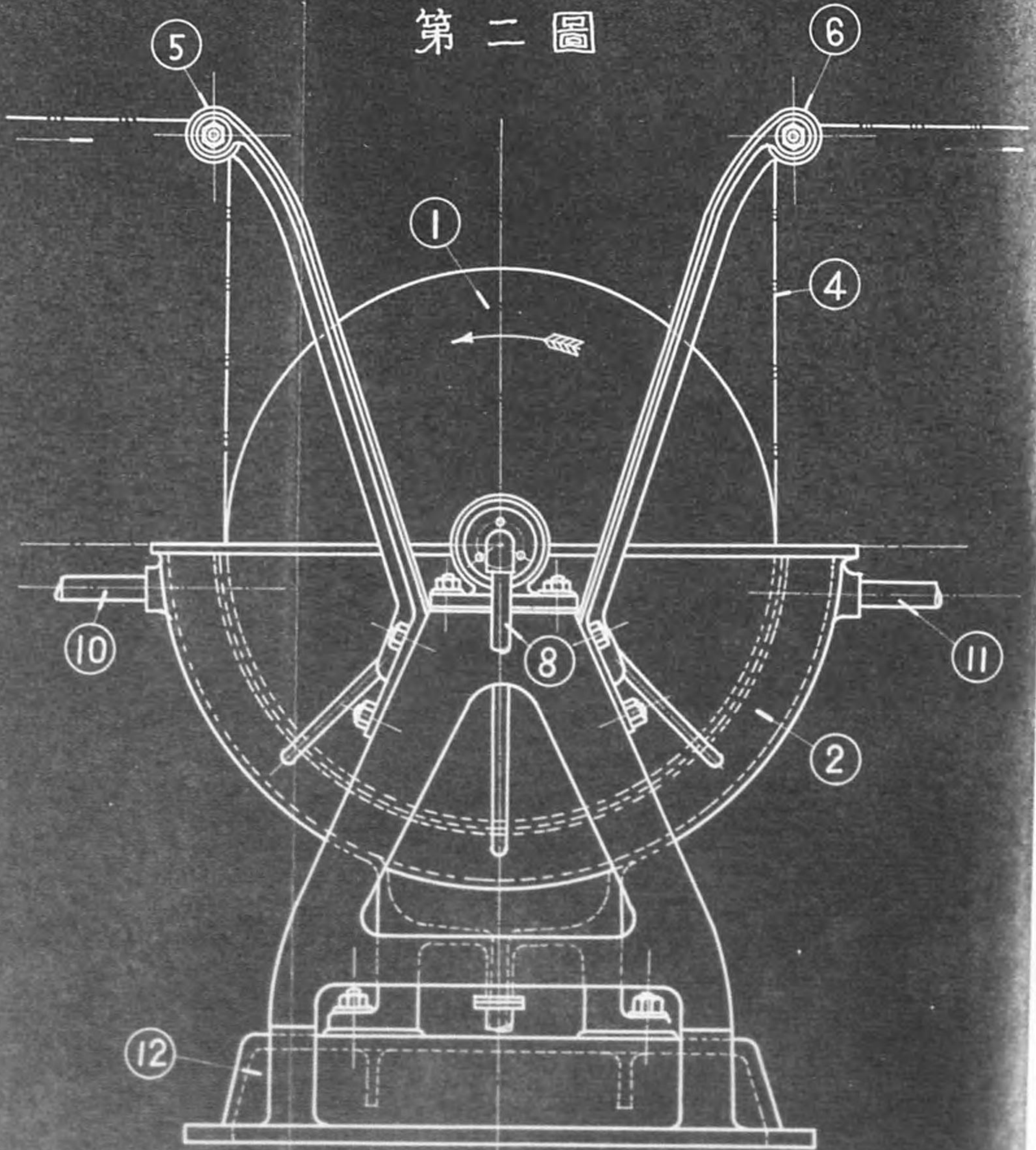
陸軍大臣 林 銑十郎

連續加硫裝置
第一圖



連續加硫裝置

第二圖



保存期限 永久
決裁指定 局長
決行指定 牛島

大臣 委
主務局長 局長
次官 次官
政務次官 政務次官
參與官 參與官
書記官 書記官
審案 審案
筆記者 筆記者

受領番號 壹第九二〇號
件名 民間特許秘密要否ニ関スル件
起元廳(課)名 持許局

大臣 委
主務局長 局長
次官 次官
政務次官 政務次官
參與官 參與官
書記官 書記官
審案 審案
筆記者 筆記者

房官臣大 課局務主
了結 領受 出提 領受 號番
昭和 昭和 昭和 昭和
年 年 年 年
三月廿四日 五月廿二日 昭和十年三月二十六日 銃一第 一二〇號

政務次官回付 決裁前(連帶) 參與官回付 決裁後(課名)

永久甲 持許

決行(決裁)後 回覽(課)名

左 軍

411	411
412	412
413	413
414	414
415	415
416	416
417	417
418	418
419	419
420	420
421	421
422	422
423	423
424	424
425	425
426	426
427	427
428	428
429	429
430	430
431	431
432	432
433	433
434	434
435	435
436	436
437	437
438	438
439	439
440	440
441	441
442	442
443	443
444	444
445	445
446	446
447	447
448	448
449	449
450	450
451	451
452	452
453	453
454	454
455	455
456	456
457	457
458	458
459	459
460	460
461	461
462	462
463	463
464	464
465	465
466	466
467	467
468	468
469	469
470	470
471	471
472	472
473	473
474	474
475	475
476	476
477	477
478	478
479	479
480	480
481	481
482	482
483	483
484	484
485	485
486	486
487	487
488	488
489	489
490	490
491	491
492	492
493	493
494	494
495	495
496	496
497	497
498	498
499	499
500	500

陸普 大臣より特許局長官へ回答

三月二十五日附十度第一四三號より以て移牒
係ル左記發明ハ調査ノ結果軍事上秘密ヲ
要セサルモノト被認候條御了知相成度別
紙特許出願書類ノ副本相添ハ此段及回
答候也

左記

願書番號	發明ノ名稱	出願人
昭和九年特許願 第一二二七九號	投下地雷彈	伴藤善夫 代理人石原寅彦

陸普第一八九五號 昭和十年五月廿二日



現品添付第九二〇號其一

陸技本秘甲第四四號

民間特許秘密要否ニ關スル件回答

昭和十年五月七日

陸軍技術本部總務部長 弘岡好忠

陸軍省副官 牛島

滿 殿

秘

陸密第二六六號ニ依ル左記出願特許ニ關シテハ不發爆彈ノ所置ニハ既知ノ方法アリテ本特許申請ニ主張スル如キ效力ヲ期待スルヲ得ス從テ其實用價值大ナリト認メラレサルヲ以テ當部トシテハ秘密特許ヲ要セサル意見ナリ但一應航空本部ノ意見ヲ徵セラレタシ同部ニ於テ爾他ノ關係上之ヲ要スル意見ナルニ於テハ當部トシテモ異存ナキニ付可然取計相成様致度

左記

昭和九年特許願

第一一二七九號

發明ノ名稱

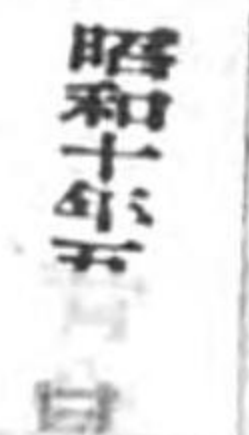
投下地雷彈

出願人

伊藤 善夫

代理人

石原 寅彦



第 120

陸密 副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

左記出願特許ニ関シ別紙ノ通特許局長官ヨリ
移牒アリタルニ付之ニ對スル秘密要否調査相成
度依命通牒ス

追テ特許願及明細書並圖面添付セシニ付
用済後返戻相成度申添フ

左記 陸密第二六六號 昭和十年四月十五日

昭和九年特許願 第一一七九號

發明ノ名稱 投下地雷彈

出願人 伊藤善夫

代理人 石原寅彦

銃砲局

軍省 壹第 九二〇 號

十庶第一四三號

昭和十年三月二十五日

特許局長官 中松 眞 卿

陸軍大臣 林 銑十郎 殿



左記發明ハ軍事上秘密ヲ要スルモノト被認候處御意見承知致度特許出願書類ノ副本相添ヘ特許法施行令第二條ノ規定ニ依リ此段及移牒候也
追テ右發明ガ秘密ヲ要スルモノトノ御意見ナルニ於テハ本件ノ審査官トシテ兼任當局技師今井清市ヲ指定可致候條御了知相成度申添候

記

願書番號 昭和九年特許願 第一一二七九號	發明ノ名稱 投下地雷彈	出願人 伊藤善夫 代理人 石原寅彦
----------------------------	----------------	-------------------------

陸普

副官ヨリ陸軍科學研究所長へ通牒

(陸軍技術本部經由)

客年二月二十二日附陸科研甲第九五號ニ依ル左

記出願特許ニ關シ別紙ノ通特許證送付ス

左記

陸普第三三一九號

昭和十年六月十一日

金屬浴ニヨル工ム連續加硫裝置

特許第一一〇三七一號

特許證

陸軍大臣

發明者

東京市國澤新太郎 芦澤忠治

發明ノ名稱

金屬浴ニヨル「ゴム」連續加硫裝置

出願公告

昭和十年一月二十五日

前記發明ハ特許スヘキモノト確定シタリ仍テ特許原簿ニ登録
シ本證ヲ下付ス

昭和十年四月十七日

特許局長官 中松眞卿

副官ヨリ陸軍科學研究所長へ通牒(技術本部)
客年二月二十二日附陸科研甲第九五號ニ
依ル左記出願特許ニ関シ別紙寫、通出願
公告ノ決定謄本送付ス

左記

金屬浴ニヨル「ゴム」連續加硫裝置

陸普第二二三號 昭和十年一月十九日





陸軍技術本部經由
參 第二二二 其三

陸科研甲第六二七號

特許訂正明細書提出ノ件通牒

昭和九年十二月十八日

陸軍科學研究所長 久村種樹

陸軍省副官 牛島 滿 殿

十二月四日附陸普第七二七九號通牒ニ依ル首題ノ件別紙ノ通提出ス
別紙四通添付



本部經由 陸科研甲第六二七號



特許訂正書差出ノ件及明細書
大臣捺印止特許局(送達セリ)

(差出期間十一月十九日限)

昭和九年十二月廿六日

鏡 尾 課

官房印中

昭和九年十二月廿七日



陸軍第七七〇六號

昭和九年三月廿七日

訂正書 差出、件

昭和九年特許願 第二五九五號

發明ノ名稱 金屬浴^ニ用^ル「^トゴム」連續加硫装置

右出願ニ関シ 昭和九年十一月二十六日附、通知ニ從

ヒ別紙ノ通 訂正書 正副ニ通 差出候也

昭和九年十二月 日

東京市麹町区永田町一丁目一番地

陸軍大臣 林 銑十郎

特許局長官 中松真卿 殿

明

細

書

2211	
2212	
2213	
2214	
2215	
2216	
2217	
2218	
2219	
2220	
2221	
2222	
2223	
2224	
2225	
2226	
2227	
2228	
2229	
2230	
2231	
2232	
2233	
2234	
2235	
2236	
2237	
2238	
2239	
2240	
2241	
2242	
2243	
2244	
2245	
2246	
2247	
2248	
2249	
2250	

明細書

發明ノ名稱

金屬浴ニヨルゴム連續加硫裝置

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ加硫溫度ヨリ低々熔融點ヲ有スル金屬浴ト該浴中ニテ回轉シ且加熱裝置ヲ備ヘタル筒或ハ該浴中ヲ移動シ且熱ノ良導物質ヲ以テ製セラレタル無端帶トヨリ成ルコトヲ特徴トスルゴム連續加硫裝置ニ係リ其目的トスル所ハ被加硫物ヲ筒或ハ無端帶ノ表面ニ沿ヒテ金屬浴中ヲ連續通過セシメ之ヲ兩面ヨリ加熱シテ均一ナル加硫ヲ連續的ニ行ハシメントスルニ在リ

圖面ノ略解

別紙圖面ハ本發明ノ實施ニ例ヲ示スモノニシテ第一圖
及第三圖ハ其說明的側面圖第二圖及第四圖ハ同正面圖
第五圖ハ同平面圖ナリトス 而シテ圖中同一符號ハ同
一部分ヲ示スモノトス

發明ノ詳細ナル說明

從來ゴムノ加硫裝置ニハプレス加硫裝置ノ如ク他ニ設
ケシ加壓裝置ニヨリ被加硫物ニ壓ヲ加ヘ同時ニ金屬板
又ハ金屬型ヲ熱ノ媒體トシテ熱ヲ加フルモノ空氣加硫
裝置ノ如ク密閉罐中ニ被加硫物ヲ入レ常壓空氣壓縮空
氣又ハ其他ノガス體中ニテ加壓シ或ハ加壓セスシテ加
熱スルモノ熱湯加硫裝置ノ如ク被加硫物ヲ密閉罐中ノ
熱湯ニ浸シ水ヲ過熱シテ加壓加硫スルモノ等アレトモ

本發明ノ如ク熔融金屬ヲ熱ノ媒體並加壓手段トシテ加
硫ヲ行フヘキ裝置ナシ
本發明ハ加硫溫度ヨリ低キ溫度即チ攝氏一〇〇度附近
ニ於テ熔融シ銅、マンガン、其他ゴムニ有害ナル金屬ヲ含
マス且空氣中ニテ酸化變質スルコト少キ例ヘハ、ミルト
ン、メタル（熔融點攝氏九七、五度）等ノ如キ金屬ノ浴中ヲ加
熱裝置ヲ備ヘタル金屬製筒ヲ回轉セシムルカ又ハ金屬
ノ如キ熱ノ良導物質ヲ以テ製セラレタル無端帶ヲ移動
セシメ其表面ニ沿ヒテ被加硫物ヲ通過セシメ加熱金屬
及金屬浴ノ兩面ヨリ熱ヲ供給シ且熔融金屬ヨリ生スル
液體壓ヲ加ヘツツゴム引布等ノ如キモノヲ連續的ニ加
硫スル裝置ニシテ金屬浴ハ熱ノ媒體及壓力供給ノ二作

用ヲナシ而モ其壓力ハ液體壓ナルニヨリ液高ニヨリ一
定ニシテ一定ノ厚サニ加硫スヘキゴム引布等ノ加壓原
理トシテハ極メテ適當ナルモノナリ
從來ノ連續加硫装置ハ加熱セラレシ回轉圓筒ト繼目無
シ鋼鐵製調帶トヨリ成リ他ニ設ケシ水壓装置ニヨリテ
生セシメシ壓ヲ之ニ加フルモノナレハ熱ハ被加硫物ノ
加熱圓筒側ノミヨリ供給セララルル缺點ヲ有ス又繼目
無シ鋼鐵製調帶ハ大ナル張力ヲ受クルモノナレハ調帶
並装置ハ極メテ堅牢ナルヲ要ス斯ノ如キ良質大型ノ
鋼鐵製調帶ハ目下國內ニテ製作セラレサルノミナラス
萬一調帶破斷スルトキハ之カ受ケツツアル大ナル張力
及鋼鐵ノ彈性ヨリ來ル甚大ナル危險ヲ豫想セサルヘカ

ラス 然ルニ本發明ノ装置ニ於テハ斯ノ如キ大ナル張
 カヲ受クヘキ鋼鐵製調帶ヲ要セサル故装置ハ特ニ堅牢
 ナルヲ要セス危險モ少ク且修理等モ容易ナリ
 今其實施ノ二例ヲ示セハ別紙圖面ノ如シ 而シテ第一
 圖及第二圖ニ於テ(1)ハ金屬製圓筒(2)ハ金屬浴槽(3)ハ金
 屬浴(4)ハゴム引布等ノ如キ被加硫物(5)(6)ハローラ(7)
 ハブローラ(8)(9)(10)(11)ハ蒸氣管(12)ハ全装置ノ臺ニシテ床
 ニ取附ケラル 本装置ヲ使用シテ加硫スル方法ヲ示セ
 ハ次ノ如シ 先ツ管(8)及(10)ヨリ水蒸氣ヲ送入シテ圓筒
 (1)及槽(2)ヲ加硫溫度ニ加熱シ金屬浴(3)ヲモ加硫溫度ト
 ナシ圓筒(1)ヲ適當ノ速度ヲ以テ回轉ス 被加硫物(4)ハ
 ローラ(5)ヲ經テ金屬浴(3)ニ入り圓筒(1)ノ表面ニ沿ヒ

テ然モ熔融金屬ノ液體壓ヲ受ケツツ加硫セラレローラ
 (6)ヲ經テ矢印ノ方向ニ連續的ニ進行ス 此際圓筒(1)
 及槽(2)ノ溫度ハ(8)(10)ノ管ヨリ送入セラルル水蒸氣ノ量
 及(9)(10)ノ管ヨリ排出セラルル水蒸氣ノ量ヲ加減スルコ
 トニヨリテ恆溫ニ保持セラルルモノナリ
 又第三圖第四圖第五圖ニ於テ(13)ハ金屬製槽(14)ハ金屬浴
 槽(15)ハ金屬浴(16)ハ金屬製調帶(18)ハ被加硫物(19)
 (23)(24)(25)(26)(27)(28)(29)(30)(31)ハローラ(32)ハ
 (33)(34)(35)(36)ハ本裝置ヲ用ヒテ加硫
 (37)ハ蒸氣管(38)ハ全裝置ノ臺ナリ 本裝置ヲ用ヒテ加硫
 スル方法ハ第一圖及第二圖ニ示ス加硫裝置ノ場合ト略
 3 同一ナリ
 本發明ハ以上ニ記載シ説明シタル實施例ノミニニ制限サ

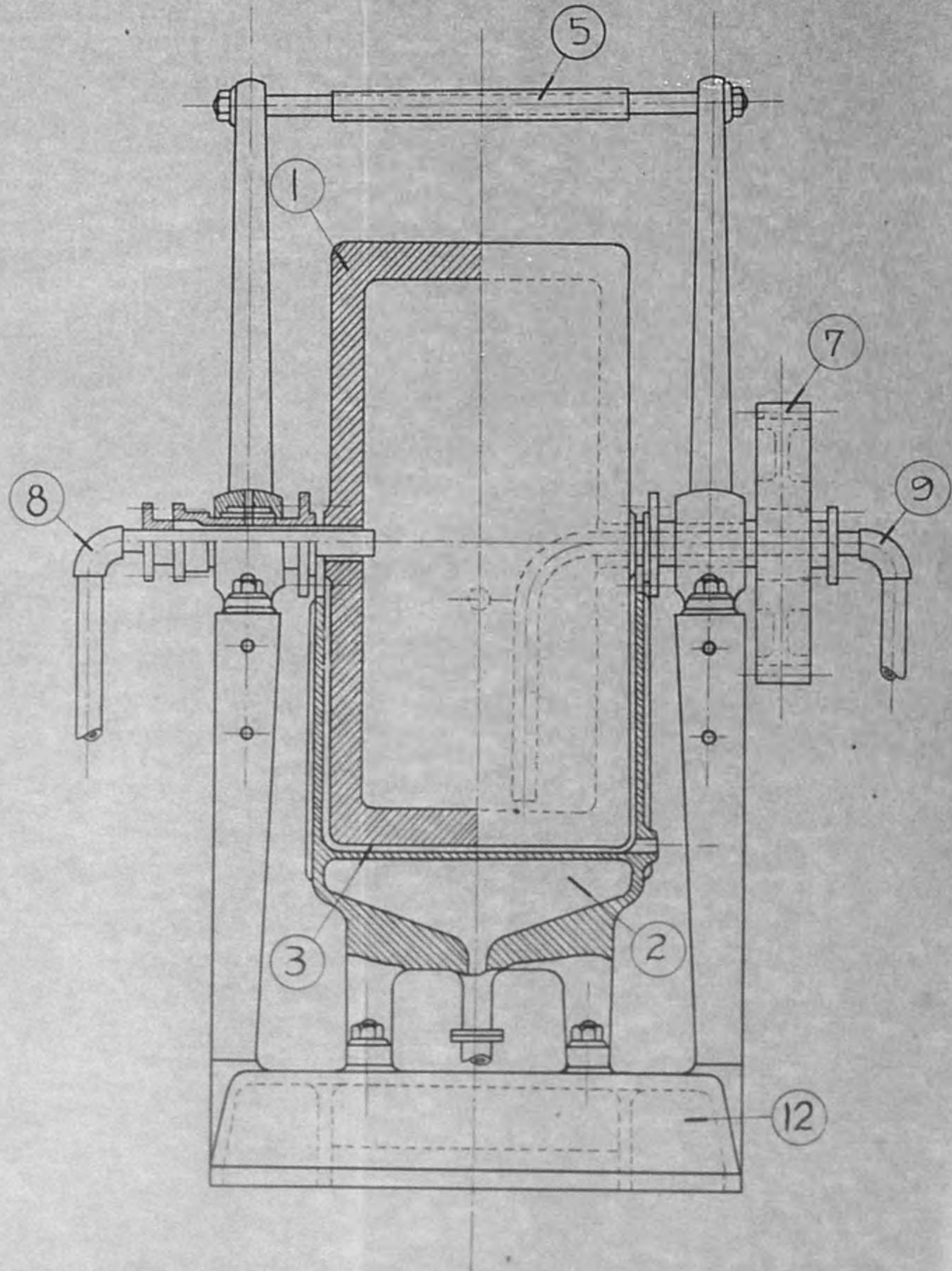
ルハキニ非スシテ本發明ノ原理ヲ離ルルコトナク之ニ
種々ノ變更ヲ加ヘ得ルモノトス

特許請求ノ範圍

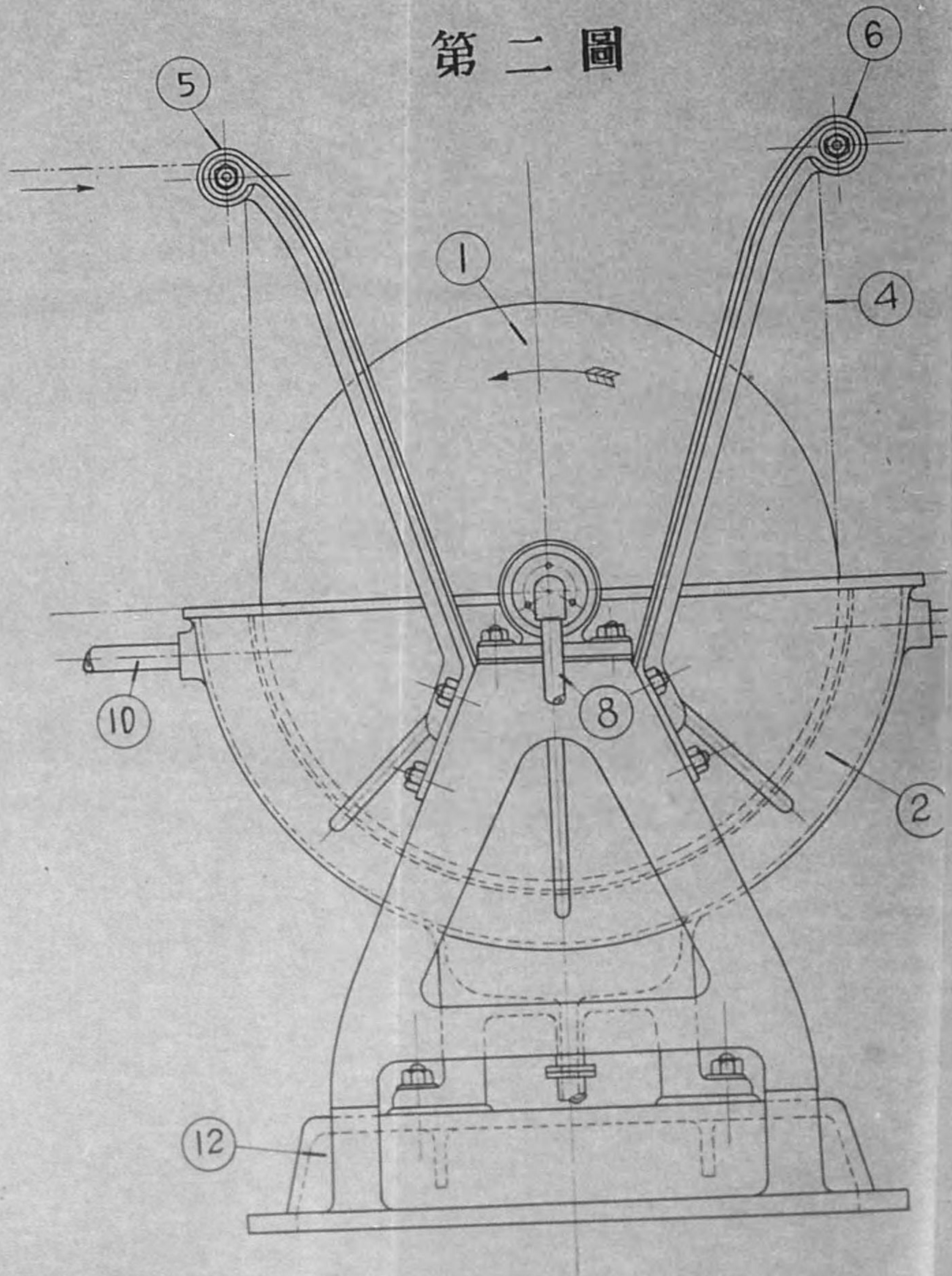
本文記載ノ目的ニ於テ本文ニ詳記シ圖面ニ明示セル如
ク加硫溫度ヨリ低キ鎔融點ヲ有スル金屬浴ト該浴中ニ
テ回轉シ且加熱裝置ヲ備ヘタル筒或ハ該浴中ヲ移動シ
且熱ノ良導物質ヲ以テ製セラレタル無端帶トヨリ成ル
コム連續加硫裝置

陸軍大臣 林 銑十郎

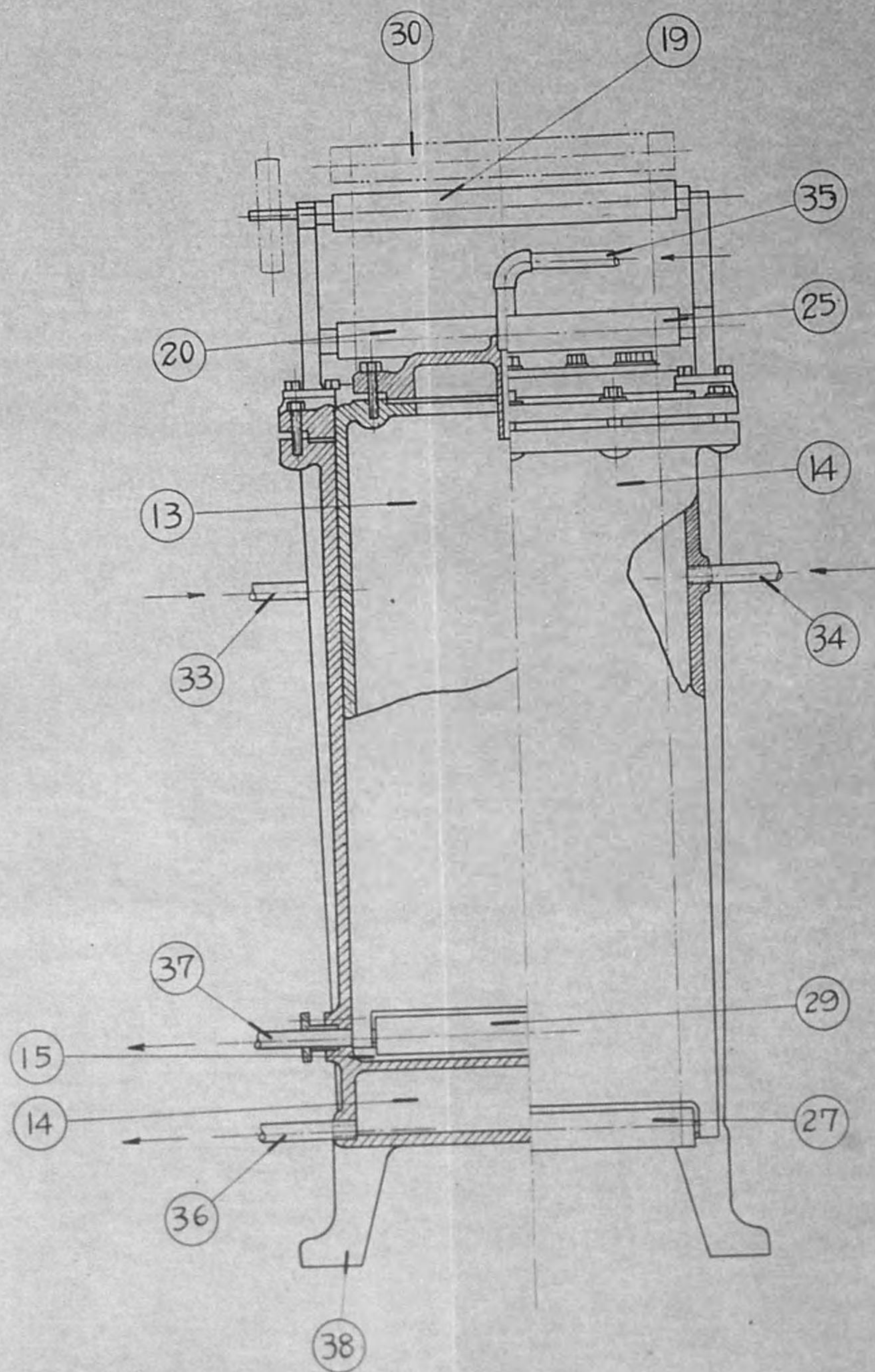
第一圖



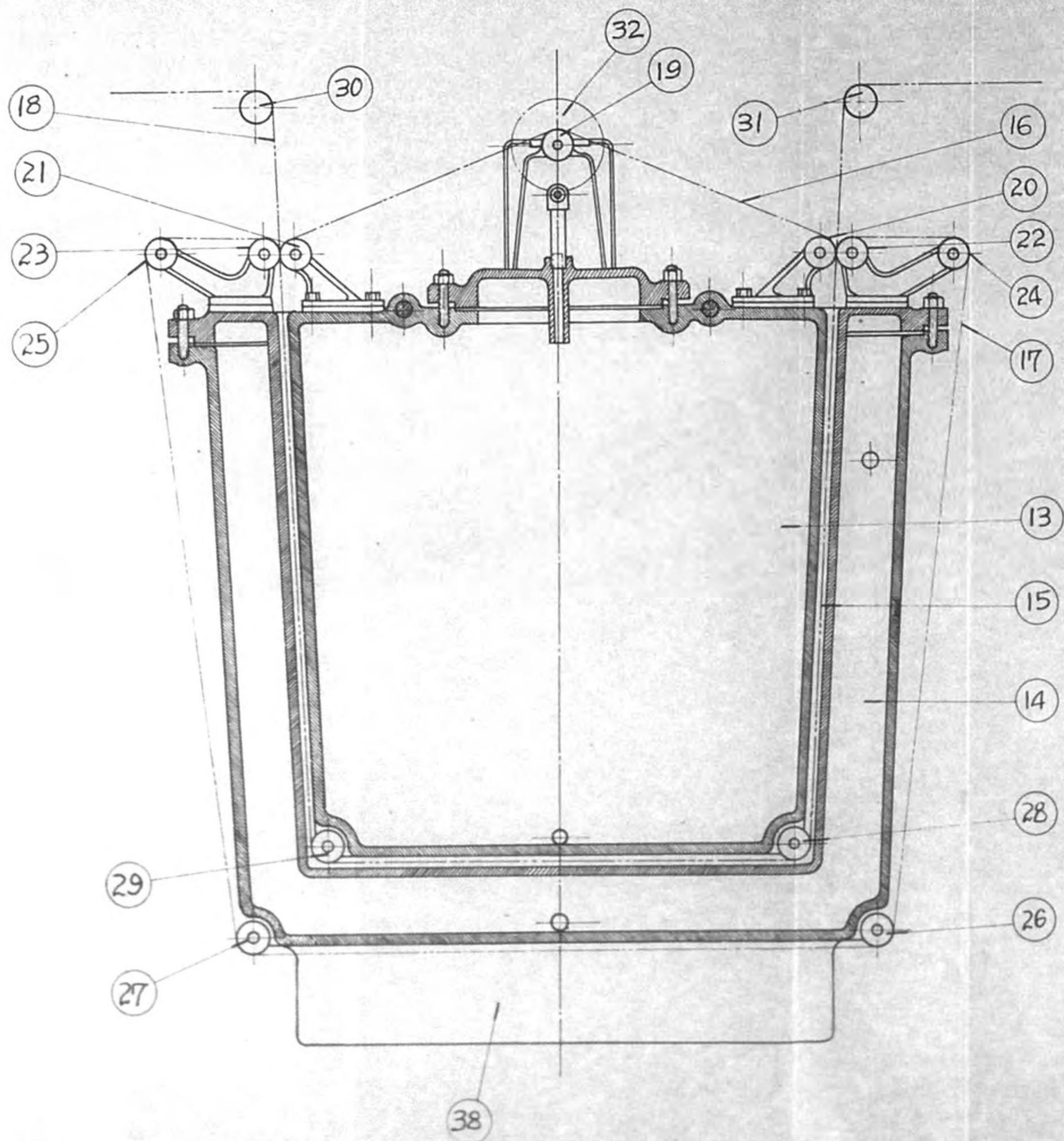
第二圖



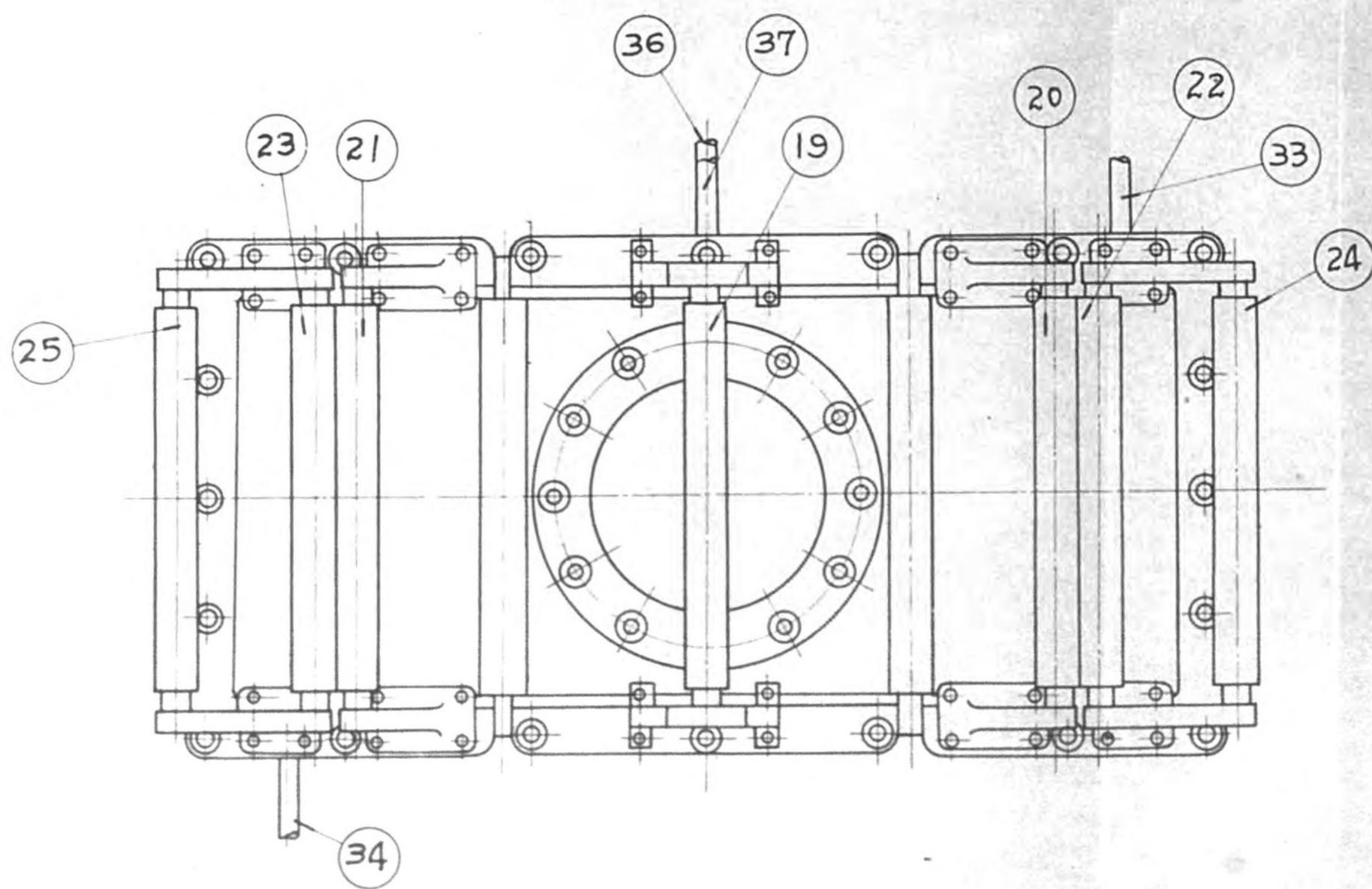
第三圖



第四圖



第五圖



保存期限
 決裁指定
 決行指定

政務次官
 參與官
 回付
 決裁前
 連帶
 課名

決行(決裁)後
 回覽
 課名

受領番號
 參 第 二 一 二 號 其 二
 起元應(課)名
 陸軍科學研究所
 件名
 出願特許ニ関シ訂正書提出ノ件

大臣		次官		政務次官	
局長		高級副官		參與官	
主務課長		主務副官		書記官	
主務課員		官房御用掛		審案 筆記者	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	
局長		局長		局長	

主務局長
 受領番號
 三 九 〇
 昭 和 九 年 三 月 八 日
 提出
 昭 和 九 年 三 月 三 日
 受領
 昭 和 九 年 三 月 三 日
 了結
 昭 和 九 年 三 月 三 日

連帶
 局長

決行(決裁)後
 局長

官 房

陸普 副官ヨリ陸軍科學研究所長へ通牒

(陸軍技術本部經由)

二月二十二日附陸科研甲第九五號ニヨル左記出願特許ニ関シ別紙ノ通牒アリタルニ付十二月二十日迄ニ訂正明細書正副四通提出相成度依命通牒ス

左記

金属浴ニヨルゴム連續加硫装置

陸普第七二七九號

昭和九年三月四日



Table with columns and rows of numbers and small text, likely a ledger or index.

41 1022

41 0104

4 銃砲

第 二 二 二 號 一

陸軍省 大官印 9.8.20

陸軍省 大官印

願書番號通知

昭和九年特許願第

2595 號

昭和九年 三月 廿五日 差出ニ係ル特許願書ニ附

シタル番號右ノ通ニ付之ヲ通知ス

追テ以後本件ニ關シ書類、雛形、見本等ヲ差出ストキハ

必ス之ニ前記願書番號(昭和九年特許願第 號)及發明

ノ名稱ヲ記載シ印形ハ願書ニ押捺シタルモノヲ使用

スヘシ

昭和九年 三月 廿五日

特許局

陸軍省 9.8.20 第 90 號 銃砲課

陸軍

陸軍技術本部經由

九三月七日
經由第二九號

陸科研甲第九五號

參第 二 一 二 號

特許出願ノ件上

昭和九年二月二十二日 陸軍科學研究所長 久村種樹

陸軍大臣 林 銑 十 郎 殿

左記品目ニ對シ別紙讓渡證ニ通特許願並明細書圖面各四通添付進達セシニ付特許出願相成度

左記

- 一、發明ノ名稱 金屬浴ニヨル「ゴム」連續加硫裝置
- 一、發明者 東京市淀橋區百人町參丁目貳百七拾番地 國 澤 新 太 郎

東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦 澤 忠 治



本文申越、通特許願及明細書圖面ニ大臣捺印、上讓渡證ト共、特許局へ送達セラレ度

昭和九年三月十三日

一覽第三十百

官房 御中



課

一 陸普第一四五七號 昭和九年三月十三日

官房控

特許願

一 發明ノ名稱 金屬浴ニヨルホム連續加硫裝置

一 發明者 東京市淡橋區百人町参丁目貳百七拾番地

國澤新太郎

一同 東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦澤忠治

右出願ニ關シ別紙明細書ニ記載スル發明ニ付特許相受
度候也

昭和九年 月 日

東京市麹町區永田町壹丁目壹番地

陸軍大臣 林 銑 十 郎

特許局長官 中 松 眞 卿 殿

特許局長官 中松貞卿殿

添附書類目錄

一 明細書 貳通

一 圖面 貳通

一 讓渡證 壹通

讓渡證

一、發明ノ名稱 金屬浴ニヨルゴム連續加硫裝置
右私等ノ發明ニ付特許ヲ受クルノ權利ヲ國ニ讓渡致候
也

昭和九年二月二十日

東京市淀橋區百人町参丁目貳百七拾番地

國澤新太郎

東京市目黒區下目黒四丁目九百五拾番地

芦澤忠治

陸軍大臣 林 銑十郎殿

明

細

書

明細書

發明ノ名稱

金屬浴ニヨルゴム連續加硫裝置

發明ノ性質及目的ノ要領

本發明ハ加硫溫度ヨリ低キ熔融点ヲ有スル金屬浴ト該浴中ニテ迴轉シ且ツ加熱裝置ヲ備ヘタル筒或ハ該浴中ヲ移動シ且ツ加熱サレ得ル板トヨリ成ルコトヲ特徴トスルゴム連續加硫裝置ニ係リ其目的トスル所ハ被加硫物ヲ筒或ハ板ノ表面ニ沿ヒテ金屬浴中ヲ連續通過セシメ之ヲ兩面ヨリ加熱シテ均一ナル加硫ヲ連續的ニ行ハシメントスルニ在リ

圖面ノ略解

別紙二組ノ圖面ハ本發明ノ實施ニ例ヲ示スモノニシテ
一組ノ圖中第一圖ハ其說明的側面圖第二圖ハ同正面圖
第三圖ハ同平面圖ナリトス 而シテ一組ノ圖中同一符
號ハ同一部分ヲ示スモノトス

發明ノ詳細ナル說明

從來ゴムノ加硫装置ニハプレス加硫装置ノ如ク他ニ設
ケシ加壓装置ニヨリ被加硫物ニ壓ヲ加ヘ同時ニ金屬板
又ハ金屬型ヲ熱ノ媒体トシテ熱ヲ加フルモノ空氣加硫
装置ノ如ク密閉罐中ニ被加硫物ヲ入レ常壓空氣壓縮空
氣又ハ其他ノガス体中ニテ加壓シ或ハ加壓セスシテ加
熱スルモノ熱湯加硫装置ノ如ク被加硫物ヲ密閉罐中ノ
熱湯ニ浸シ水ヲ過熱シテ加壓加硫スルモノ等アレトモ

本發明ノ如ク熔融金屬ヲ熱ノ媒体並ニ加壓手段トシテ
加硫ヲ行フヘキ装置ナシ

本發明ハ加硫溫度ヨリ低キ溫度即チ攝氏一〇〇度附近
ニ於テ熔融シ銅、マンガン、其他ゴムニ有害ナル金屬ヲ含
マズ且ツ空氣中ニテ酸化受質スルコト少ナキ例ヘハ、ミ
ルトン、メタル（熔点攝氏九七五度）等ノ如キ金屬ノ浴中
ヲ加熱サレ得ル金屬製筒ヲ回轉セシムルカ又ハ金屬製
板ヲ移動セシメ其表面ニ沿ヒテ被加硫物ヲ通過セシメ
加熱金屬及金屬浴ノ兩面ヨリ熱ヲ供給シ且熔融金屬ヨ
リ生スル液体壓ヲ加ヘツツゴム引布等ノ如キモノヲ連
續的ニ加硫スル装置ニシテ金屬浴ハ熱ノ媒体及壓力供
給ノニ作用ヲナシ而シテ其壓力ハ液体壓ナルニヨリ液高

ニヨリ一定ニシテ一定ノ厚サニ加硫スヘキゴム引布等
ノ加壓原理トシテハ極メテ適當ナルモノナリ
從來ノ連續加硫装置ハ加熱セラレシ回轉円筒ト継目無
シ鋼鉄製調帯トヨリ成リ他ニ設ケシ水壓装置ニヨリテ
生セシメシ壓ヲ之ニ加フルモノナレハ熱ハ極加硫物ノ
加熱円筒側ノミヨリ供給セラレル缺點ヲ有ス 又継目
無シ鋼鉄製調帯ハ大ナル張力ヲ受クルモノナレハ調帯
並ニ装置ハ極メテ堅牢ナルヲ要ス 斯ノ如キ良質大型
ノ鋼鉄製調帯ハ目下國內ニテ製作セラレサルノミナラ
ズ萬一調帯破断スル時ハコレカ受ケツツアル大ナル張
力及鋼鉄ノ彈性ヨリ来ル甚大ナル危険ヲ豫想セサルヘ
カラス 然ルニ本發明ノ装置ニ於テハ斯ノ如キ大ナル

張力ヲ受ク、キ鋼鉄製調帯ヲ要セサル故装置ハ特ニ堅
牢ナルヲ要セス危険モ少ク且ツ修理等モ容易ナリ
今其實施ノ二例ヲ示セハ別紙圖面ノ如シ而シテ第一
型加硫装置ノ第一圖及第二圖ニ於テ(1)ハ金屬製円筒(2)
ハ金屬浴槽(3)ハ金屬浴(4)ハゴム引布等ノ如キ被加硫物
(5)ハローラ(6)ハローラ(7)ハローラ(8)ハローラ(9)ハ
蒸氣管(10)ハ全
装置ノ台ニシテ床ニ取附ケラル本装置ヲ使用シテ加
硫スル方法ヲ示セハ次ノ如シ先ツ管(8)及(10)ヨリ水蒸
氣ヲ送入シテ円筒(1)及槽(2)ヲ加硫温度ニ加熱シ金屬浴
(3)ヲ加硫温度トナシ円筒(1)ヲ適當ノ速度ヲ以テ回轉
ス被加硫物(4)ハローラ(5)ヲ經テ金屬浴(3)ニ入り円
筒(1)ノ表面ニ沿ヒテ然ラズ熔融金屬ノ液体壓ヲ受ケツツ

加硫セラレコロラ(6)ヲ經テ矢印ノ方向ニ連續的ニ進
 行ス此際円筒(1)及槽(2)ノ温度ハ(8)(10)ノ管ヨリ送入セ
 ラレル水蒸氣ノ量及(7)(10)ノ管ヨリ排出セラルル水蒸氣
 ノ量ヲ加減スルコトニヨリテ恒温ニ保持セラルルモノ
 ナリ

又第二型加硫装置ノ第一圖第二圖第三圖ニ於テ(1)ハ金
 屬製槽(2)ハ金屬浴槽(3)ハ金屬浴(4)ハ金屬製調節(1)
 破加硫物(7)(8)(9)(10)(11)(12)(13)(14)(15)(16)
 装置ヲ用ヒテ加硫スル方法ハ第一型加硫装置ノ場合ト
 略同一ナリ
 本發明ハ以上ニ記載シ説明シタル實施例ノミニ制限サ

ルヘキニ非スシテ本發明ノ原理ヲ離ルルコトナク之ニ
種々ノ変更ヲ加ヘ得ルヌトス

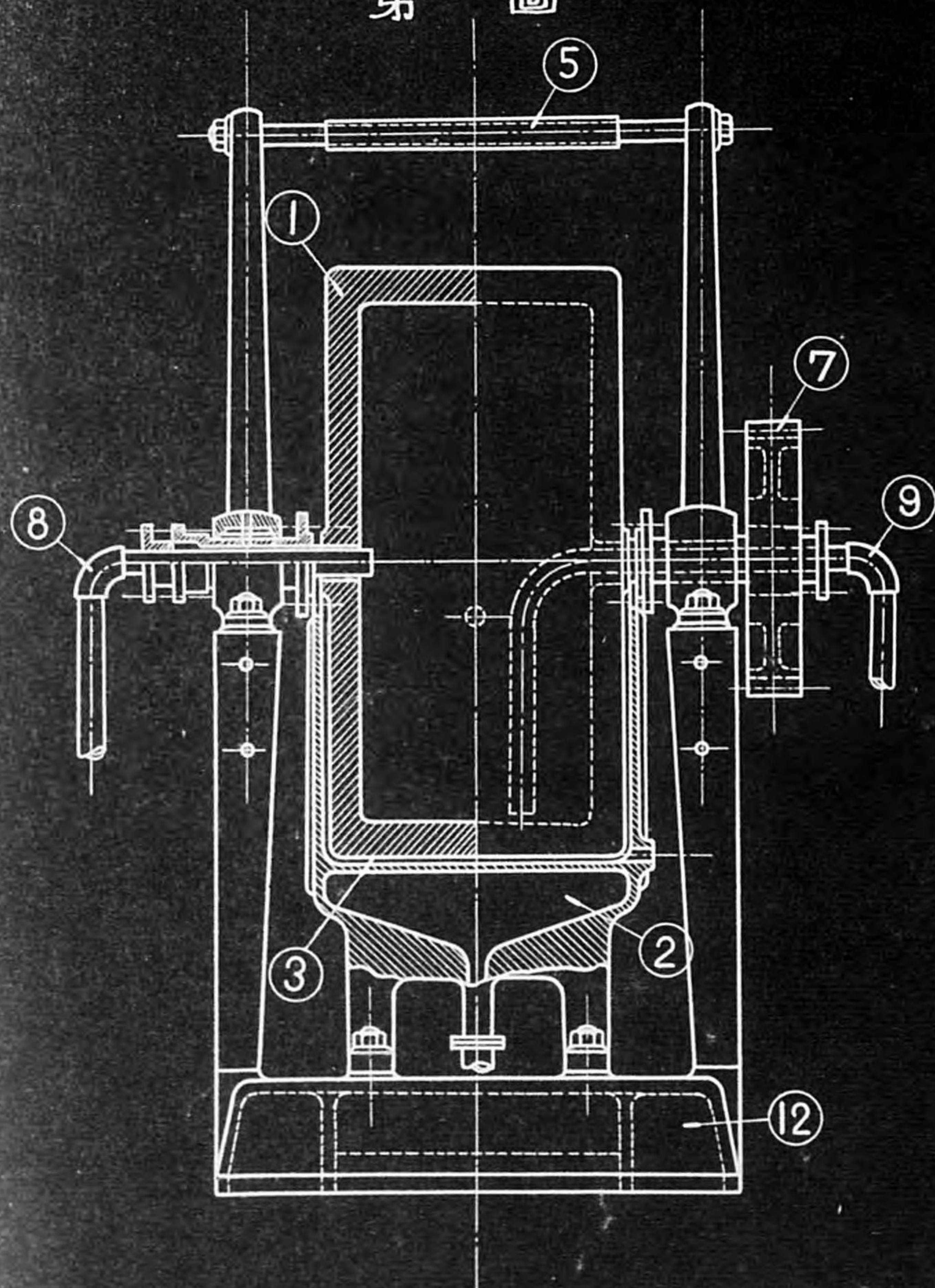
特許請求ノ範圍

本文記載ノ目的ニ於テ本文ニ詳記シ圖面ニ明示セル如
ク加硫温度ヨリ低キ熔融点ヲ有スル金属浴ト該浴中ニ
テ回轉シ且ツ加熱装置ヲ備ヘタル筒或ハ該浴中ヲ移動
シ且ツ加熱サレ得ル板トヨリ成ルゴム連續加硫装置

陸軍大臣 林 銑十郎

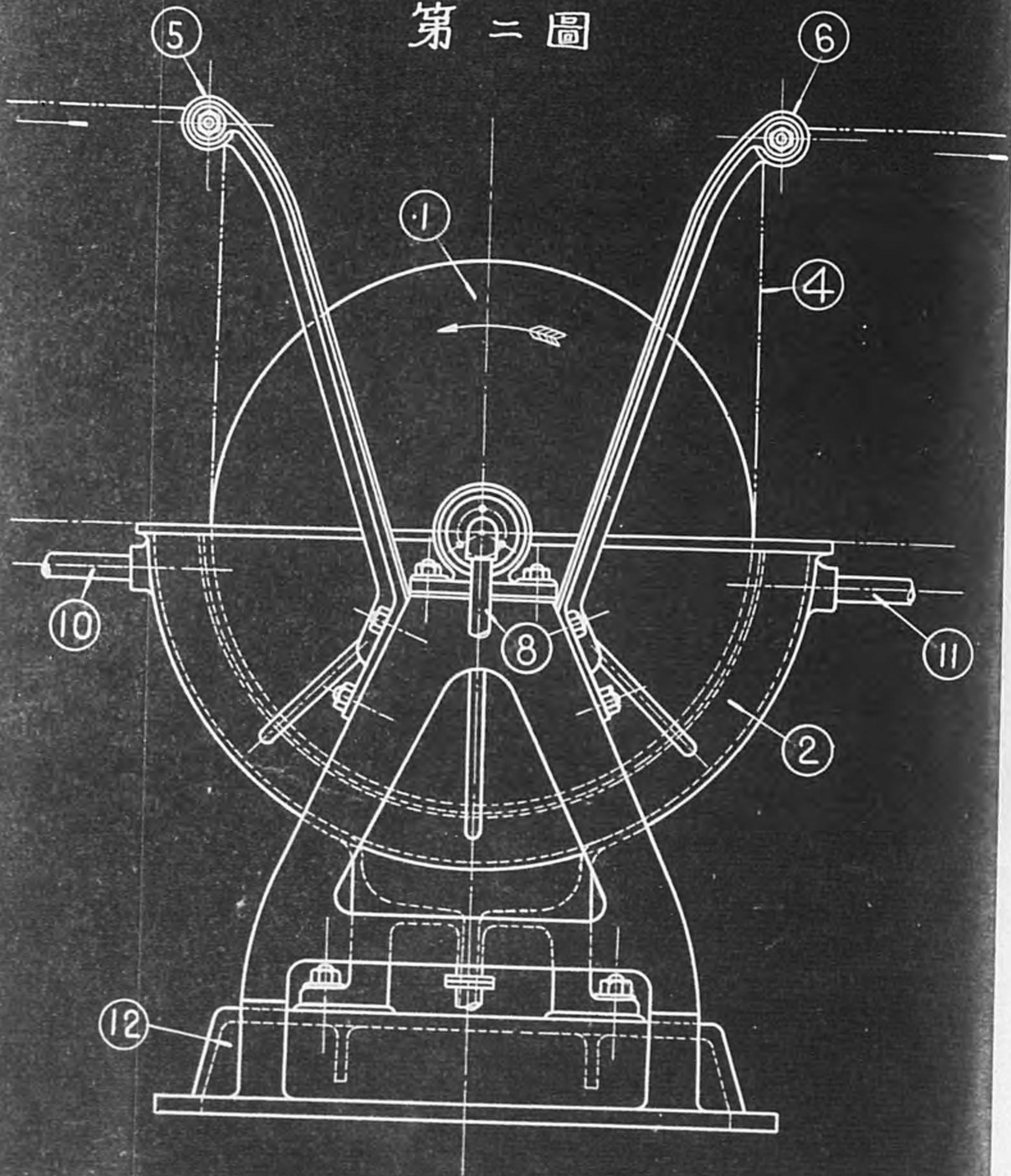
第一型加硫裝置

第一圖



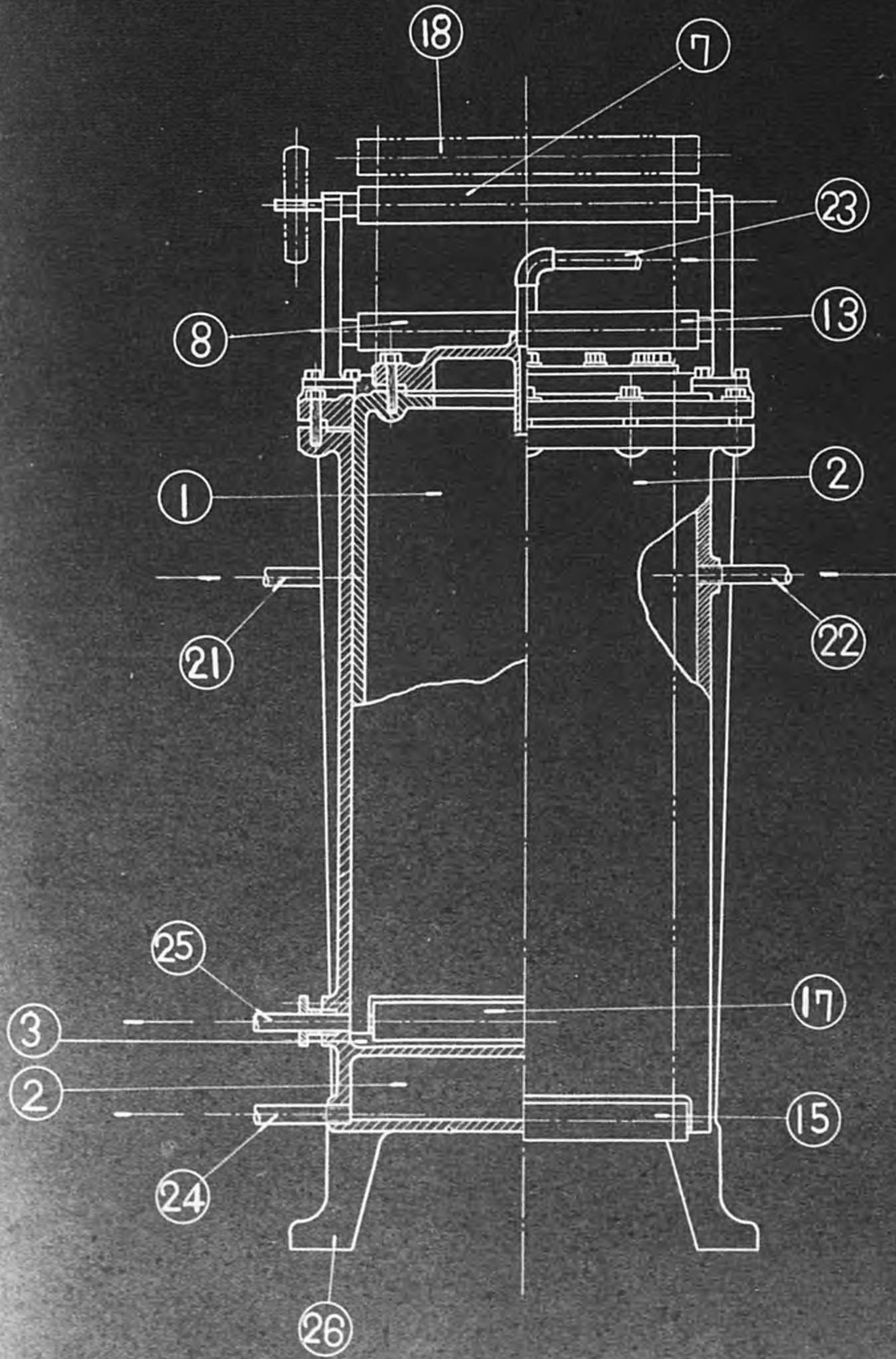
第一型加硫装置

第二圖



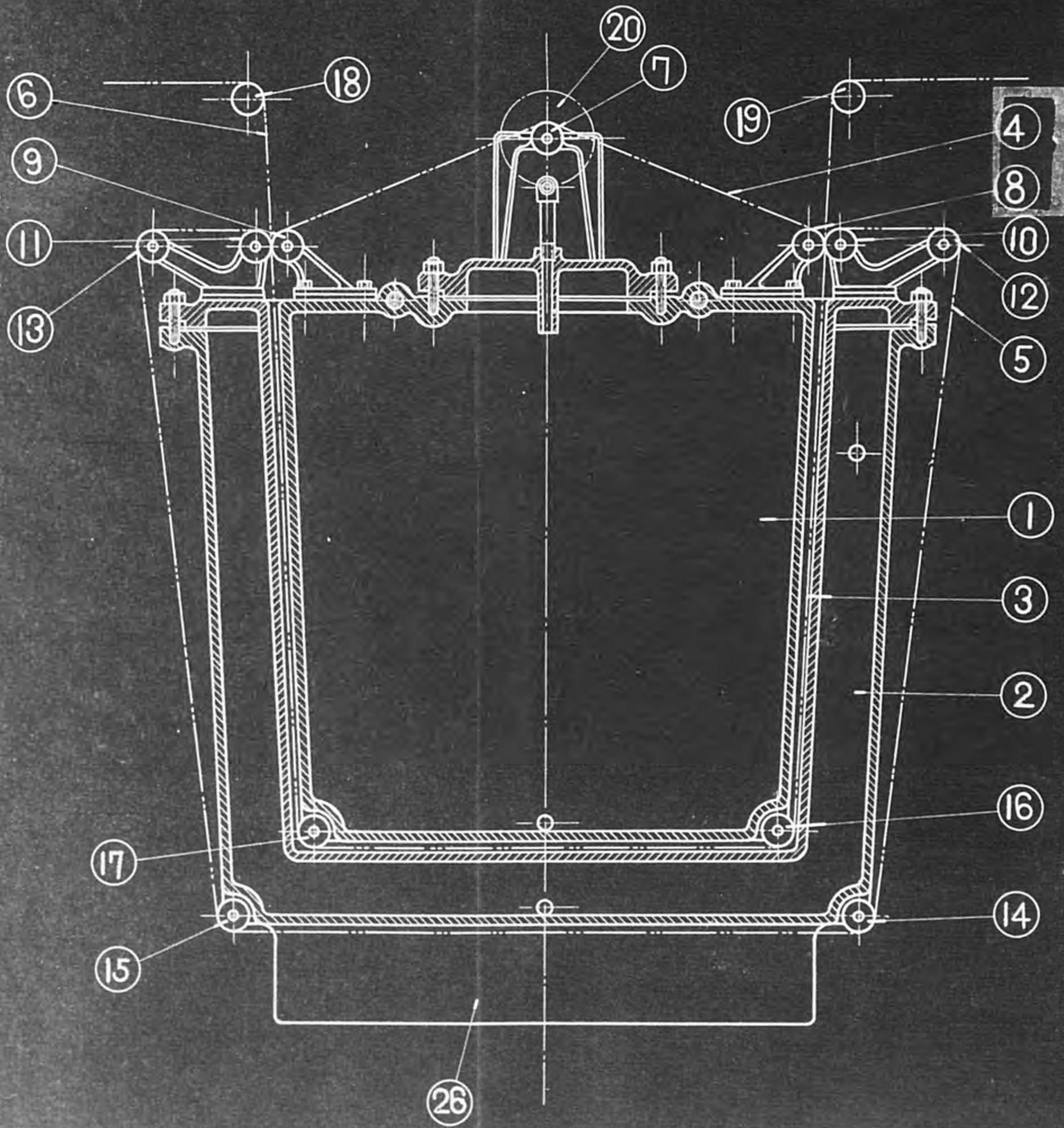
第二型加硫装置

第一圖



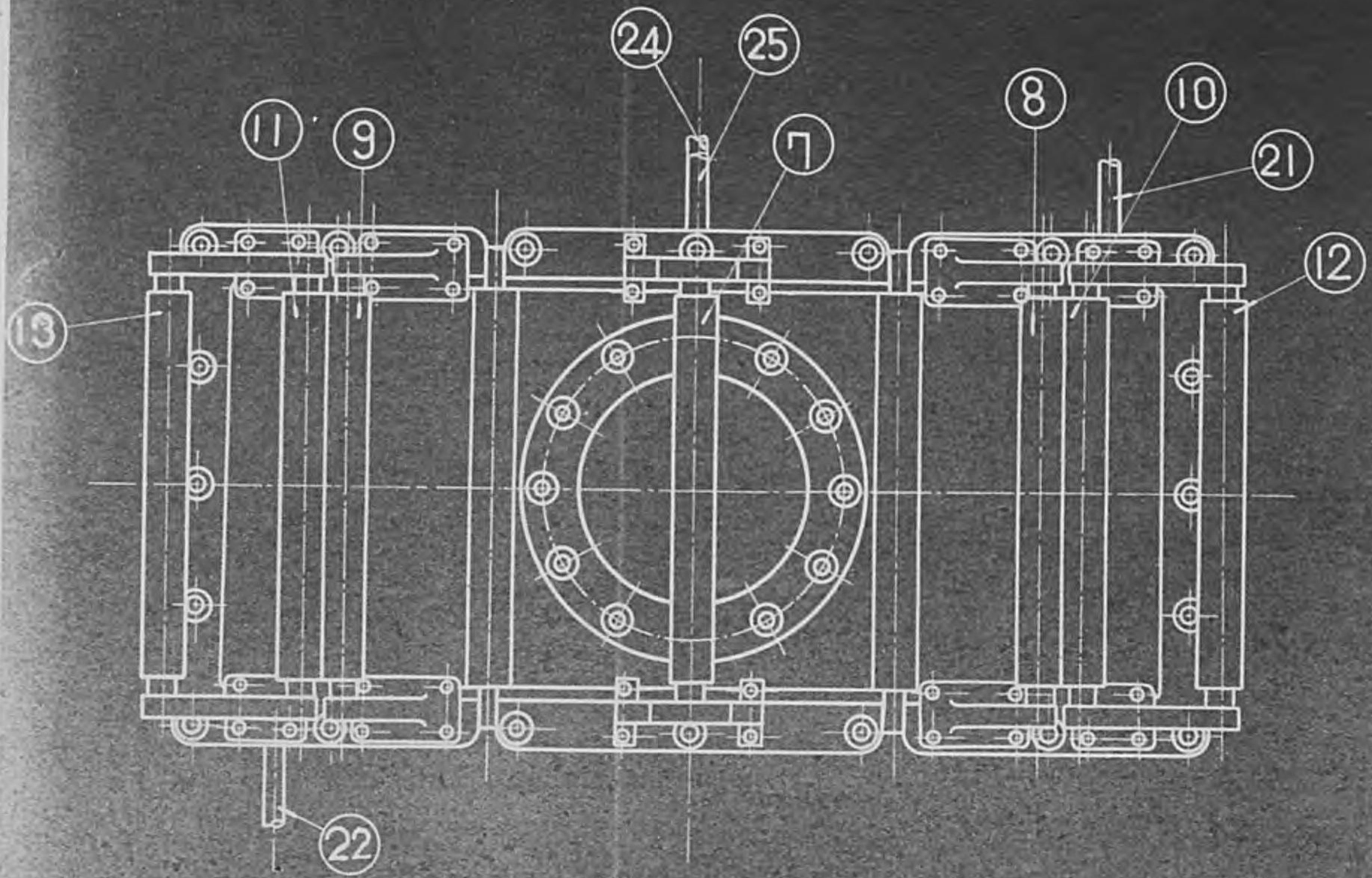
第二型加硫装置

第二圖



第二型加硫装置

第三圖



陸普 副官ヨリ千住製絨所長心得へ通牒

一月十一日附絨第九號ニ依ル左記出願特許

ニ関シ別紙ノ通出願公告ノ決定謄本寫送

付ス 陸普第五一七七號 昭和九年八月卅壹日

左記

織布柔軟度試験器

本器は如次式謄本悉如左記
千住製絨所長ヨリ



Handwritten notes in a grid format on the left margin, including numbers and dates such as 1914, 1917, 1918, 1919, 1920, 1921, 1922, 1923, 1924, 1925, 1926, 1927, 1928, 1929, 1930, 1931, 1932, 1933, 1934, 1935, 1936, 1937, 1938, 1939, 1940, 1941, 1942, 1943, 1944, 1945, 1946, 1947, 1948, 1949, 1950, 1951, 1952, 1953, 1954, 1955, 1956, 1957, 1958, 1959, 1960, 1961, 1962, 1963, 1964, 1965, 1966, 1967, 1968, 1969, 1970, 1971, 1972, 1973, 1974, 1975, 1976, 1977, 1978, 1979, 1980, 1981, 1982, 1983, 1984, 1985, 1986, 1987, 1988, 1989, 1990, 1991, 1992, 1993, 1994, 1995, 1996, 1997, 1998, 1999, 2000.

Handwritten notes in a grid on the right side of the page, including numbers and characters.

昭和九年八月廿壹日

伍 九 六

出願公告ノ決定曆本

陸軍省 大官送 8.23

省電 8.24 第3號 砲課

昭和九年特許願第六八五號
發明ノ名稱 織布柔軟度試験器

出願人 陸軍大臣

代理人

本願ハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定ス

昭和九年八月二十日

特許局審査官

井上 信

右謄本ハ原本ト相違ナキコトヲ認證ス

昭和九年八月廿壹日

特許局屬

高橋米太郎



銃砲

伍第九 號共五

絨第八〇七號

出願特許ニ關スル訂正書再提出ノ件

昭和九年八月三日

千住製絨所長心得 岡 本 信

陸軍省副官 牛島 滿 殿

客月廿七日附陸普第四六四三號通牒首題訂正書正副四通提出ス

陸軍省 9.8.3 大臣官房

陸軍省 9.8.4 第三課

陸軍



訂正明細書差出、件及明細書

ニ天原捺印、上特許局へ送達相

成度

昭和九年八月拾日

昭和九年八月十日

録



伍 九 五

紙第八〇七號

出願特許ニ關スル訂正書再提出ノ件

昭和九年八月三日

千住製絨所長心得 岡本信

陸軍省副官 牛島 滿 殿

客月廿七日附陸普第四六四三號通牒首題訂正書正副四通提出ス

陸軍省
9.8.3
大臣官房

陸軍省
9.8.4
第3課

陸軍



官房控

陸軍第四八五〇號 昭和九年八月十日



訂正書差出ノ件

昭和九年特許願第六八五號

發明ノ名稱織布柔軟度試驗器

右出願ニ関シ昭和九年七月十七日附ノ通知ニ從ヒ
別紙ノ通り訂正書正副二通差出候也

昭和九年八月 日

東京市麹町區永田町一丁目一番地

陸軍大臣 林 銑十郎

特許局長官中松真卿殿

明細書

一、發明ノ名称 織布柔軟度試験器

ニ、發明ノ性質及目的ノ要領 本發明ハ上下ニ位置ヲ調整シ得ル磁石ノ磁場内ニ試験片ノ下端ニ取り付ケ得ル電気線輪ヲ設ケタル回転体ヲ有シ該回転体ノ下ニ電気的ニ二室ニ絶縁セラレタル水銀槽ヲ設ケ二個ノ收電棒ヲ以テテ回転体ト水銀槽トヲ電気的ニ連続セル織布柔軟度試験器ニ係リソノ目的トスルトゴロハ筒状ナル構造ニヨリ正確ニ織布ノ柔軟度ヲ測定セントスルニアリ

三、圖面ノ略解 第一圖ハ本考案柔軟度試験器ノ側面圖 第二圖ハA-A線ヨリ下部ノ平面圖ナリトス

四、發明ノ詳細ナル説明 本發明ハ試験セントスル織布

ノ一定長サ中ノ試片ヲ懸垂シ之レニ捻リヲ與ヘル柔軟度試験器ノ考案ニ係リ(1)ハ支持台(20)ヨリ突出スル支持棒ニシテ腕(2)ハ(1)ニ適合スル端部ヲ有シソレニ附屬スル不^レ込ニテ直^レ当ノ高サニ止マラシム(3)ハ腕(2)ニ固着スル部分ニテ之レニ蝶捻子ソノ他直^レ当ナル方法ニテ試験セルトスル織布ノ片(4)ヲ取り付クコト(4)ノ他端ハ回転体(6)ニ固着スル(5)ノ突起ニ蝶捻子ソノ他直^レ当ナル方法ニテ取り付ク新クシテ回転体ヲ(8)ノ永久磁石ノ磁場内ニ自由ニ懸垂スル回転体下部ニ(10)(11)ノニツノ細キ收電棒ヲ付ス即ケ本圖ニテハ(18)ノ電池ヨリ來ル電流ハ端子(17)ニ入ル(15)ハ電気ノ不^レ導體ニテ作ラレタル容器ニテ台(12)ノ上ニ乘リユノ器ノ中心ニ細キ円筒形ノ室ヲ設ク即ケ圖ノ

如ク中心ノ部ト外周ノ部トハ電氣的ニ絶縁セラレタル
モノニテエノ内外ノ室ニ水銀ヲ盛ル(13)ハ外部ニ入レラ
レタル(14)ハ内部ニ入レラレタル水銀ナリ
端子(17)ヨリノ電流ハ最短距離ヲトリテ(10)ニ入リ(10)ヨリ
之レニ接続スル電線(9)ニ俾ハル斯クシテ回転体ノ周囲
ヲ磁場ノ磁カヲ切レテ向ニ幾度モ廻ハリタル電流ハ最
後ニ(11)ニ行キ水銀(14)ヲ經テ端子(16)ヨリ電池(18)ニ帰ヘル
尚木本図ニハ表ハシテアラザレドモ電路ノ途中ニハ抵抗
器閉塞ハ勿論電流計ヲ付シテ試験装置ニ一定電流ヲ
送ル如ク調整スルモノトス斯クテ試験器ニ一定電流ヲ
通シテ回転体(6)ニ帶ニ一定ナルトルクヲ與ヘ得ルモノ
ナリユノ説明ニテハ磁石ハ永久磁石ヲ用ウルコトニシ

タレドモ状況ニ應ジテ電磁石ニテ代用シ得ラル
以上ノ装置ニヨリ一定長サ一定巾ノ試片(8)ヲ均等ナ
ル彈性体ト考ヘレバソノ試片ノ柔軟ノ如何ニヨリ回転
角ヲ異ニスソノ角度ヲ指針(7)ニテ目盛(19)ヲ指ス様ニシ
テ測ルモノナリ即チ角度ノ大ナル程織布ノ柔軟ナルコ
トヲ示ス

從來軍織或ハ織布等製造ニ際シテハ完全ナル柔軟ヲ計
ル装置ナク從テ理想的ニ柔キ軍織等ヲ製造スルニ際シ
テモ研究ノ尺度トスベキモノナリ單ニ手觸リ或ハ熟練
ノミニヨリテ特殊ノ人ニヨリニ判別セラレタレドモソレ
トテモ正確ニハアラズ且ツソノ柔軟度ナルモノヲ數字
ニ表ハシテ記録比較スルノ便モ亦皆無ニシテ柔軟ノ判

別ハ甚ダ必要ニモ拘ラズ原始時代ソノ値ノモノナリ而
ルニ本装置ニテ実験シタルニ甚ダヨク柔軟度ヲ判別ス
ルヲ得テ大イニ有効ナルヲ実証シタリ尚従来文献等ニ
散見スル柔軟度試験方法ハ何レモソノ装置ノ固保上試
験セントスル織布ノ重量ガソノ結果ニ影響スルコト大
ニシテソノ真ノ値ヲ表ハサズ依テ柔軟度ヲ比較スベキ
標準トナラズ。本装置ニテハ全然斯カル誤差ノ原因ナク
実用上甚ダ有利ナリ且ツ本装置ニテハ本装置ノ正確サ
ヲ調査スルヲ目的トシテトル α ノ一定サヲ時々全高算
適当ナル物質ノ薄片算ヲ織布ヲ試験スルト同様ノ方法
ニテ捻リテソノ一定ナル回転角ノ指度ヲ検査ス β ノ為
 $\alpha =$ 本装置ニテハ線 \times 磁場 \times 横切ル α ノ電線ハ磁場ノ

高サト高サノ方向ニ圖ニテ β ニテ示ス喰ヒ置ヒヲ保 α
テ置カレ β ル如ク α ス即チ α ノ電線ノ側部ノモノ換言スレ
バ懸垂サレタル試験片ト平行スル垂直ナル有効線輪ノ
一部ハ磁場ノ外ニ出デテ磁場ノ長サ全体ニ線輪ハ断面
セズ故ニ若 β トル α ニ誤差アルコトヲ発見シタル時ハ
 α ノ磁石ヲ上下シテ β ノ断面スル有効線輪ノ長サヲ調
整シテ一定電流ニ對スレトル α ヲ常ニ一定ナラシムル
コトナリ本装置ニ於テハ回転体ハ回転スルニ際シテハ
摩擦算ノ機械的抵抗ハ皆無ニシテ水銀ノ抵抗ハ問題ト
スレニ足ラズ故ニ回転セントスルニ對シテ抵抗スル力
ハ單ニ試片が拵ツカ β サレノミナリ依テ正確ニソノ柔軟
 β 角度ノ逆數ニテ示 β 得ルモノナリ本装置ニヨ β ハ構

造簡單取扱甚ダ容易ニシテ何算ノ危険モナク何所ノ地
ニテ何人カ行ヒテモ従来困難ナリシ柔軟度ヲ同様ニ比
較シ得テ製織上ニ便益多ク且ツ織物ノ研究發展ニ甚ダ
貢獻スベキ新規發明ナリ

五、特許請求ノ範圍

本文ニ詳記シ且別紙圖面ニ示ス如ク上下ニ位置ヲ調整
シ得ル磁石ノ磁場内ニ試験片ノ下端ニ取り付ケ得ル電
氣線輪ヲ設ケタル回転体ヲ有シ該回転体ノ下ニ電氣的
ニ三重ニ絶縁セラレタル水銀槽ヲ設ケ該槽内ニ電棒ヲ
外シテ回転体ト水銀槽トヲ電氣的ニ連続セル織布柔軟
度試験器

陸軍大臣 林 銑十郎

トテ電氣的ニ連結セル織布柔軟度試験器

一、本發明ノ性質及目的ノ要領ノ項ヲ次ノ如キ意味ニ訂止スルニ
 本發明ハ上下ニ位置ヲ調整シ得ル磁石ノ磁場内ニ試
 験片ノ下端ニ取リ付ケ得ル電氣線輪ヲ設ケタル回転
 体ヲ有シ該回転体ノ下ニ電氣的ニ空ニ絶縁セラレタ
 ル水銀槽ヲ設ケ二個ノ收電棒ヲ介シテ回転体ト水
 銀槽トヲ電氣的ニ連結セル織布柔軟度試験器ニ係
 リソノ目的トスルトコトハ簡單ナル構造ニヨリ正確ニ織布
 ノ柔軟度ヲ測定セントスルニアリ

出願人	日清(株)ノ代表ニシテ 東京市丸の内區丸の内二丁目 日清(株)ノ代表ニシテ 東京市丸の内區丸の内二丁目
代理人	東京市丸の内區丸の内二丁目 日清(株)ノ代表ニシテ 東京市丸の内區丸の内二丁目
特許代理人	東京市丸の内區丸の内二丁目 日清(株)ノ代表ニシテ 東京市丸の内區丸の内二丁目
出願日	明治三十四年三月二十一日
公開日	明治三十四年五月二十一日
特許日	明治三十四年七月二十一日
特許期間	二十年
特許料	五圓
年費	第一年度一圓、第二年度一圓、第三年度一圓、第四年度一圓、第五年度一圓、第六年度一圓、第七年度一圓、第八年度一圓、第九年度一圓、第十年度一圓、第十一年度一圓、第十二年度一圓、第十三年度一圓、第十四年度一圓、第十五年度一圓、第十六年度一圓、第十七年度一圓、第十八年度一圓、第十九年度一圓、第二十年度一圓